CAMEDIA

デジタルカメラ

X-3

取扱説明書

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

オリンパス デジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます

製品をご使用になる前に、カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- ●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番など、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- ●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- ●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- ●本製品の不適当な使用による、万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

取扱説明書の構成

もくじ

3 撮影の基本 41

4 撮影の応用 64

5 画像・画質・露出の調整 85

6 再生 95

7 カメラの便利機能 109

8 プリント予約（DPOF） 131

9 ダイレクトプリント（PictBridge） 135

10 その他 149

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警　告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**
  これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない。**
  目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**
  以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池やxDピクチャーカードなど小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **カメラで日光や強い光を見ない。**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**
  充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、専用のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

● ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。
火災や感電の原因となることがあります。
● フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。
連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
● 分解や改造をしない。
感電やけがをする原因となります。
● 内部に水や異物を入れない。
万一、水に落としたり、内部に水が入ったときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注　意

● 異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。
このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
● 濡れた手で操作しない。
感電の危険があります。また、充電器やACアダプタのプラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
● 持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。
カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
● 温度の高い所へ放置しない。
部品が劣化したり、火災の原因となります。また、充電器やACアダプタを布などで覆った状態で使用しないでください。熱が発生し、火災の原因になります。
● 専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。
カメラまたは電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
● カメラの外装の金属部分に、長時間触れない。
- 長時間お使いになると、カメラの温度が高くなります。金属部分に皮膚が触れたまま長時間使用を続けると、低温やけどを起こすおそれがあります。
- 低温下にさらされていると、カメラの外装も低温になります。皮膚が貼り付いてけがをする場合があります。低温やけどや障害を防ぐため、できるだけ素手で扱わず手袋などをご使用ください。

● 充電器やACアダプタのコードを傷つけない。
充電器やACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ずプラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- 充電器やACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - ■ 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - ■ 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - ■ 火気のある場所
  - ■ 水に濡れやすい場所
  - ■ 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- カメラの電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危　険

- 電池は、専用の当社製リチウムイオン電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用·放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や内容物の飛散の原因になり危険です。
- 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で十分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警　告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。また、濡れた手で電池に触ったり持たないでください。
- 専用の充電器で指定のリチウムイオン電池以外の電池を充電しないでください。火災やけがのおそれがあります。
- 充電器が所定の充電時間を超えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- リチウムイオン電池の外装にキズや破損のあるものは使用しないでください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注　意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- **ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。**

液晶モニタについて

本製品は液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

各部の名称

フラッシュ ☞P. 59
セルフタイマー/
リモコンランプ ☞P. 71、72
AFセンサ
録音マイク
☞P. 81、83、104
レンズバリア
レンズ
リモコン受信窓 ☞P. 72
ストラップ取付部 ☞P. 21
スピーカ

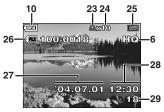
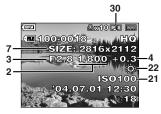
緑ランプ ☞P. 46
オレンジランプ ☞P. 46、61
ファインダ ☞P. 48
AFターゲットマーク ☞P. 47、52
(フラッシュ) ボタン ☞P. 61
(消去) ボタン ☞P. 107
(マクロ/スポット) ボタン ☞P. 68、69
(プロテクト) ボタン ☞P. 106
(再生) ボタン ☞P. 28、95
十字ボタン ☞P. 33、95
OLYMPUS
OK
液晶モニタ ☞P. 16、47、123
OK/メニューボタン ☞P. 33
カードアクセスランプ ☞P. 46、47
DC IN (DC入力) 端子 ☞P. 26
A/V OUT (MONO) (AV出力) 端子 ☞P. 103
USB端子 ☞P. 136
電池/カードカバー ☞P. 24
コネクタカバー ☞P. 26、103
三脚穴

液晶モニタの表示

●撮影モードのとき

情報表示オフのとき

情報表示オンのとき

●再生モード（静止画）のとき

情報表示オフのとき

情報表示オンのとき

●再生モード（ムービー）のとき

情報表示オフのとき

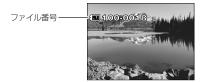
100-0015 HQ 6
SIZE: 320x240 7
+0.3 4
WB AUTO 22
'04.07.01 16:00
00:00/00:20

情報表示オンのとき

	情報	表示例	参照頁
1	撮影モード	AUTO、P、A、S、M、MY、、、、、、、	P.41
2	シャッター速度	8～1/1000	P.65
3	絞り値	F2.8～F8.0	P.64
4	露出補正 露出レベル	－2.0～＋2.0 －3.0～＋3.0	P.90 P.66
5	AFターゲットマーク	[ ]	P.47
6	画質	TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.85
7	画像サイズ	2816x2112、2560x1920、 1600x1200など	P.85
8	撮影可能枚数 撮影可能時間	24 （静止画） 00:24（分：秒） （ムービー）	P.86 P.55
9	メモリゲージ	、、、	P.19
10	電池残量	、	P.19
11	ノイズリダクション	NR	P.94
12	フラッシュ発光予告		P.61
13	緑ランプ	○	P.46
14	マクロ/ スーパーマクロ	 SP	P.69 P.70
15	フラッシュモード	、、、SLOW、 SLOW	P.59
16	フラッシュ補正	－2.0～＋2.0	P.63
17	ドライブモード	、、AF、BKT	P.74
18	セルフタイマー/ リモコン		P.71 P.72
19	録音		P.81、83
20	スポット測光		P.68

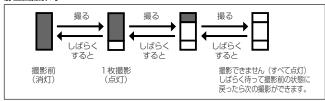
	情報	表示例	参照頁
21	ISO感度	ISO64、ISO100、ISO200、ISO400	P.89
22	ホワイトバランス	、 、 、	P.91
23	プリント予約		P.133
24	プリント予約枚数	x2～x10	P.134
25	プロテクト		P.106
26	ファイル番号	100-0018	P.131
27	日付	'04. 07. 01	P.30
28	時刻	07:15、12:30、17:45	P.30
29	コマ番号	18	―
30	録音		P.104
31	ムービー		P.100
32	ムービー 再生時間	00:00/00:20 00:00/00:20 再生経過時間　記録時間	―

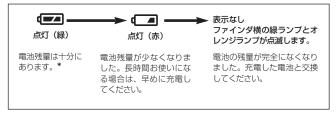
重要！DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

- 液晶モニタの表示内容は、カメラの設定により異なります。
- 液晶モニタに表示される情報量は、選択することができます。
  「情報表示 ― 画像の詳細情報を表示する」(P.117)

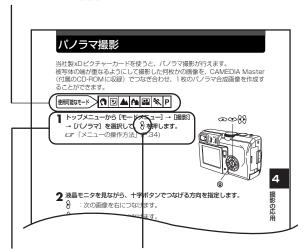
メモリゲージについて

静止画撮影した画像をカードに記録しているときには、メモリゲージが点灯します。メモリゲージの表示は、撮影状態によって以下のように変化します。ムービーの撮影中は、この表示はありません。

静止画撮影時

電池残量表示について

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、電池残量表示が次のように変化します。

＊デジタルカメラは、動作状態により消費電力が大きく変わります。カメラの動作状態によっては、電池残量の警告表示なしで電源がオフする場合があります。その際は電池を充電してください。

本書の見方

いずれかのモードに設定します。

メニューは矢印の順に操作します。(P.33)

十字ボタンを表しています。操作手順では使用する十字ボタンのみ表記しています。

注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ストラップを取り付ける

1 **ストラップ取付部にストラップの短い方を通します。**

2 **ストラップの長い方を輪にくぐらせます。**

3 **少し強めに引っ張り、ゆるんで抜けないことを確認してください。**

注意

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 手順に従って、ストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

電池／カードについて

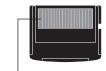
電池について

このカメラでは当社製リチウムイオン電池（LI-10B/12B）1個を使用します。それ以外の電池は使用できませんのでご注意ください。お求めいただいたときは十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（LI-10C）で充電を行ってください。専用の充電器以外は使用しないでください。詳しくは、充電器の取扱説明書（付属）をお読みください。

- 通常は約120～130分（目安）で充電が完了します。
  電池の残量により充電が早く完了することがあります。
- 充電表示ランプが赤色に点滅する場合は、電池が正しく取り付けられていないか、電池が壊れている可能性があります。
- 充電の最中にテレビ・ラジオにノイズが生じることがありますが故障ではありません。そのような場合にはテレビ、ラジオから離れたコンセントをご使用ください。
- 充電の最中に電池が暖かくなりますが、異常ではありません。
- 本機器は0℃～40℃の範囲での使用を保証しておりますが、性能を充分に発揮させるためには10℃～30℃の範囲内で充電することをお勧めします。
- 充電器を海外でご使用の際は、ご使用になる地域の電源コンセントにあった変換プラグをご用意ください。変換プラグについては、旅行代理店などにお尋ねください。

カードについて

本書では、xDピクチャーカードを「カード」と呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。
カードは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。
以下のカードが使用できます。カードの取扱説明書を必ずお読みください。

インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。

コンタクトエリア（接触面）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。この部分には直接手を触れないでください。

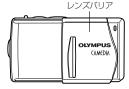
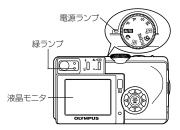
使用できるカード
xDピクチャーカード（16〜512MB）

注意

- オリンパス社製以外のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。
☞「カードのフォーマット」(P.121)
- カード表面にシールなどを貼ると、カメラから取り出せなくなることがありますので、貼らないでください。

電池・カードを入れる／取り出す

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。

- レンズバリアが閉じている。
- 液晶モニタが消灯している。
- 緑ランプが消灯している。
- 電源ランプが消灯している。

2 電池／カードカバーをⒶの方向にスライドさせます。

- ロックが外れて電池カバーがⒷ方向へ開きます。
- カバーをスライドさせるときは指の腹を使って開けてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

3 電池を入れる

電池の向きを正しく合わせて入れます。

- ノブがしっかりロックされていることを確認します。正しくロックされていないと、カバーを開けた際に電池が飛び出すことがあります。

電池を取り出す

矢印方向にノブをスライドさせます。電池が出てきたら、つまんで取り出します。

注意

- 電源を切ってから3秒以内に電池を抜くと、マイモードに登録した内容がクリアされることがあります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数・時間が減少することがあります。
  - 液晶モニタが点灯している。
  - 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - パソコンやプリンタとの接続時。

カードを入れる

カードの向きを正しく合わせて入れます。

- カードが斜めに入らないようにまっすぐに押し込みます。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。

カードを取り出す

カードを一度奥に向かって押し込んで、そのままゆっくり戻します。

- カードが手前に出てきて止まります。カードをつまんで取り出します。

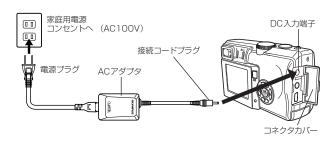
4 電池／カードカバーを C の方向に閉じ、D の方向にスライドさせます。

注意

- カードはペンなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。
- カメラの電源が入っているときは、絶対に電池／カードカバーを開けたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。
- カードを取り出す際に、カードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくように押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

別売のACアダプタを使う

このカメラは付属の電池のほか、ACアダプタ（D-7AC）の使用も可能です。画像をパソコンにダウンロードするときなど、時間のかかる作業を行うときにご利用ください。
専用のACアダプタ以外は使用しないでください。詳しくは、ACアダプタの取扱説明書をお読みください。

注意

- ACアダプタを使用するときは、電池を抜いてからご使用ください。
- 電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。ただし、パソコンとの接続中にはACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに、電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や、機能にトラブルが生じる場合があります。
- 「安全にお使いいただくために」をよくお読みください。☞ P.9

電源を入れる／切る

撮影するとき

電源を入れる.....レンズバリアを開きます。液晶モニタが点灯し撮影モードで電源が入ります（電源ランプが点灯）。

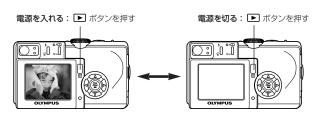
電源を切る.........レンズバリアをレンズのところまで少し閉じます。レンズに触れる直前にカチッという感触があり、液晶モニタが消灯しレンズがゆっくり引っ込みます。レンズが引っ込んでから、レンズバリアを完全に閉じます。電源が切れます（電源ランプが消灯）。

電源を入れる：
レンズバリアを
開ける

電源を切る：レンズバリアを閉じる

再生するとき

電源を入れる.....レンズバリアを閉じた状態で ▶ ボタンを押します。再生モードで電源が入ります（液晶モニタが点灯）。
電源を切る......... ▶ ボタンを押します。電源が切れます（液晶モニタが消灯）。

注意

- 電源を入れたままで何も操作しないと、電池の消耗を防ぐため、カメラはスリープモード（待機状態）*に入ります。ズームレバーやシャッターボタンを操作すると動きます。スリープモードに入るまでの時間は、設定することができます。☞ P.128
  ＊再生モードでは、常に3分で電源が切れます。
- 以下のときも、電源ランプが点灯します。
  － パソコンと接続している。
  － スリープモードに入っている。
- レンズバリアを閉じるときは、レンズにレンズバリアを強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

スタートアップ／シャットダウン画面

電池を入れたときや切ったときに現れる起動・終了時の画面を表示するかどうかを選択したり、そのときの音量を調節することができます。☞「PW ON/OFF設定－起動時と終了時の画面と音量を設定する」（P.126）

カードが認識されないときは（カードチェック）

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。カードが入っていなかったり、このカメラで使用できないカードが入っているときは、次の画面が表示されます。

表示	ヒント
カードを認識できません	**カードがカメラに入っていません。またはカードが奥までしっかりと入っていません。** →カードを入れてください。すでにカードが入っているときは、いったんカードを取り出して入れ直してください。
このカードは使用できません	**カードに問題があります。** →カードをフォーマットしてください。フォーマットをしてもこの表示が消えないときは、新しいカードを使用してください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK フォーマット すべてのデータが消去されます フォーマット 中止 選択 実行 OK	**カードがこのカメラのシステムでは読めません。** → を押して［電源オフ］を選択し、 を押して新しいカードを入れてください。 →カードをフォーマットしてください。 ① を押して［フォーマット］を選択し、 を押します。 ［フォーマット］画面が表示されます。 ② を押して［フォーマット］を選択し、 を押します。 フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

注意

• フォーマット（初期化）するとカード内のすべてのデータが消去されますので、ご注意ください。

日時の設定

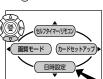
カメラの日時を設定します。日時は撮影した画像と一緒に保存されますので、撮影前に正しく設定されているかを再度ご確認ください。

使用可能なモード AUTO P A S M

ここでは AUTO モードを例に説明します。
他のモードではモードメニューで設定します。
☞ P.34、37

1 **モードダイヤルを AUTO にして、レンズバリアを開きます。**
- 電源ランプが点灯し、レンズが自動的に前に出てきます。
- レンズが出てこない場合は、レンズバリアが完全に開ききっていません。
- 液晶モニタが自動的に点灯します。

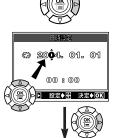
2 **OK を押します。**
- トップメニューが表示されます。

3 **▽ を押して、［日時設定］を選択します。**

4 **マークが選択されているときに、△▽ を押して日付の順序を選択します。**
- 順序は
「日・月・年」
「月・日・年」
「年・月・日」
から選択します。
- この手順以降は、「年・月・日」に設定した場合の説明をします。

5 ▷を押して、年の設定に移動します。

6 △▽を押して、[年]を設定します。[年]が確定したら、▷を押して[月]の設定に移動します。

- [分]までの設定を同様に繰り返します。
- ◁を押すと、一つ前の項目に戻ります。
- カメラの時間表示は24時間表示を使用しています。たとえば、午後2時は14：00と表示されます。
- [年]の上2桁は固定されています。

7 OKを押します。

- 0秒の時報に合わせOKを押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

8 電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。

注意

- 電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。
- 電池を外した状態で約1日放置すると、設定した日付は初期状態に戻ります（当社試験条件による）。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日付が解除されます。

1 準備

画面表示の言語の切り替え

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語以外の言語にすることができます。

使用可能なモード P A S M

1 レンズバリアを開きます。
- モードダイヤルは AUTO 以外に合わせます。

2 を押します。
- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの を押して、[モードメニュー] を選択します。

4 を押して、[設定] タブ を選択し、 を押します。

5 を押して [ ] を選択し、 を押します。

6 を押して表示したい言語を選択し、 を押します。

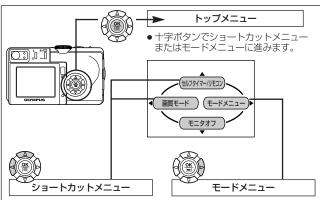
7 再度 を押して、メニューを終了します。

8 電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。

1 準備

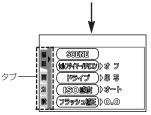
2 メニューのしくみ

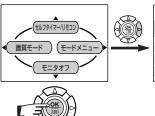
メニューについて

カメラの電源を入れて (OK) を押すと、液晶モニタにトップメニューが表示されます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは**P**モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。

ショートカットメニュー

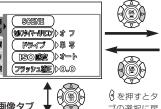
- 直接、各項目の設定画面に進みます。
- 操作可能なボタンが画面下に表示されます。
- AUTO 🎥 ▶ モード以外ではショートカットメニューを変更することができます。☞「ショートカット設定」(P.111)

モードメニュー

- ISO感度などいろいろな設定ができます。
- 設定項目が機能ごとにタブで分類されています。
- (△)(▽) でタブを選択すると、それぞれのタブのメニュー項目が表示されます。

メニューの操作方法

Pモードの画面を使って説明します。

1 ㊖を押してトップメニューを表示し、▷を押します。

トップメニュー

2 を押してタブを選択し、▷を押します。

撮影タブ

◁を押すとタブの選択に戻ります。

画像タブ

カードタブ

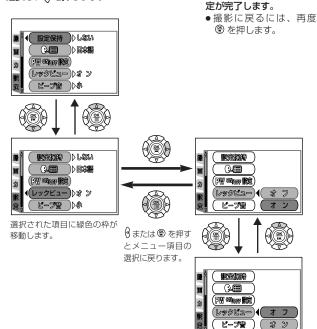
設定タブ

3 ◎◎を押して設定する項目を選択し、▷を押します。

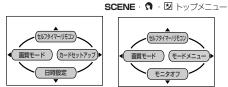
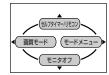
選択された項目に緑色の枠が移動します。

◁または OK を押すとメニュー項目の選択に戻ります。

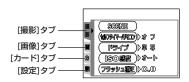
4 ◎◎を押して設定を変更します。OK を押すと設定が完了します。

- 撮影に戻るには、再度 OK を押します。

- カメラの状態や設定内容などにより、選択できない項目があります。
- 撮影モードではメニューを表示した状態でもシャッターボタンを押すと撮影できます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、［設定保持］の機能を［する］に設定してください。☞「設定保持－電源を切っても設定を残す」（P.109）

ショートカットメニュー（撮影／再生）

AUTO トップメニュー　　P・A・S・M・MY・SCENE・・ トップメニュー　　▶ トップメニュー（静止画）

撮影	**セルフタイマー／リモコン**	セルフタイマー撮影またはリモコンを使って撮影ができます。	P.71、72
	日時設定	日付と時刻を設定します。	P.30
	画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P.85
	カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.121
	モニタオフ (モニタオン)	カメラの電源を入れたときに液晶モニタが点灯するか、しないかを選択します。 • オン時は[モニタオフ]、オフ時は[モニタオン]が表示されます。	P.51
	ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスに設定できます。	P.91
	ムービー録音	ムービー撮影時に音声を録音します。	P.83
再生	**自動再生**	カードに記録されている画像を、撮影順に再生します。	P.98
	ムービープレイ	撮影したムービーを再生します。またそのムービーのインデックス作成をすることもできます。	P.100
	情報表示	画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P.117
	ヒストグラム表示	画像のヒストグラム (輝度分布)を表示します。	P.119

モードメニュー（撮影）

モードメニューの中はタブで分けられています。△▽を押して画面の左側にあるタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

[撮影] タブ		
SCENE＊	撮影シーンを [風景] [記念撮影] [セルフポートレート] [スポーツ] から選択します。	P.42
セルフタイマー／リモコン	セルフタイマー撮影またはリモコンを使って撮影ができます。	P.71、72
ドライブ	単写・連写・AF連写・BKT（ブラケット撮影）から選択します。	P.74
ISO感度	ISO感度を選択します。	P.89
フラッシュ補正	フラッシュの発光量を増減できます。	P.63
ノイズリダクション	長時間露光時に、画像に発生するノイズを軽減します。	P.94
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（約12倍まで）のズーム撮影が可能です。	P.58
フルタイムAF	シャッターボタンを半押ししなくても、カメラを向けている被写体に常にピントを合わせます。	P.67
アクセサリ	防水プロテクタを使用するときに設定します。	P.84
スチル録音	静止画撮影時に音声を録音します。	P.81
スーパーマクロ	被写体に約4cmまで接近して撮影できます。	P.70
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影ができます。	P.77

＊ [SCENE] はモードダイヤルを「SCENE」に合わせたときに選択できます。

合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P.79
ファンクション撮影	［モノクロ］［セピア］の特殊効果をつけた撮影をします。	P.80
撮影情報表示	撮影時に表示されるシャッター速度やホワイトバランスなどの情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P.117
ヒストグラム表示	画像のヒストグラム (輝度分布)を表示します。	P.119

［画像］タブ

画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P.85
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスに設定できます。	P.91
シャープネス	画像の鮮鋭度を調節します。	P.92
コントラスト	画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。	P.93

［カード］タブ

カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.121

［設定］タブ

設定保持	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.109
(言語アイコン)	画面表示の言語を選択します。	P.32
PW ON/OFF設定	電源を入れたり切ったりしたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ／シャットダウン画面を表示するかどうかを選択したり、そのときの音量を調整します。	P.126
レックビュー	撮影した画像の記録中にその画像を表示するかどうかを選択します。	P.127
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにしたり、音量を選択します。	P.123

シャッタ音	シャッターボタンを押したときの音をオフにしたり、その音と音量を選択します。	P.124
スリープ時間	カメラがスリープモード（待機状態）に入るまでの時間を設定します。	P.128
マイモード設定	撮影機能を自由に設定して登録します。	P.114
ファイル名メモリー	カメラ内に自動的に記録されるフォルダ名／ファイル名の付け方を選択します。	P.129
ピクセルマッピング	CCDと画像処理機能のチェックをします。	P.130
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節します。	P.123
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.30
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて、NTSCかPALを選択します。	P.128
ショートカット設定	お好みの機能をショートカットメニューに登録します。	P.111

モードメニュー（再生）

再生モードのとき、静止画の再生中と、ムービーの再生中では、モードメニューが異なります。△▽を押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

静止画再生時

ムービー再生時

［再生］タブ

回転表示	撮影した画像を時計回り(＋90゜)、または反時計回り(ー90゜)に回転して表示します。	P.99
プリント予約	カードの中の画像をプリント予約します。	P.133
録音	撮影した静止画に音声を記録します。	P.104

［編集］タブ

リサイズ	撮影した画像のサイズを変更して、別の画像として保存します。	P.105

［カード］タブ

カードセットアップ	カードをフォーマット、またはカード内の画像をすべて消去します。	P.108、121

［設定］タブ

設定保持	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.109
(言語アイコン)	画面表示の言語を選択します。	P.32
PW ON/OFF設定	電源を入れたり切ったりしたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ／シャットダウン画面を表示するかどうかを選択したり、そのときの音量を調整します。	P.126
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにしたり、音量を選択します。	P.123
再生音量	再生時の音量を調整します。	P.125
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節します。	P.123
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.30
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて、NTSCかPALを選択します。	P.128
インデックス表示	インデックス再生時、液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。	P.97

3 撮影の基本

撮影モード

撮影シーンに合わせて撮影モードを選んでください。モードダイヤルやモードメニューから選択して撮影します。

注意

• モードダイヤルを回すと、［設定保持］を［する］にしても初期設定に戻る機能があります。

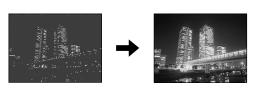
AUTO フルオート撮影

明るさ調整やピント合わせなどのモードが自動的に選択されるので、気軽に撮影したいときに便利です。このモードではフラッシュ補正やドライブなどの特別な機能や操作を設定することはできません。一番簡単な撮影方法です。

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

夜景撮影

夜の景色を撮るのに最適です。他のモードで輝く街の夜景などを撮影した場合、明るさが不足してしまうため、光っている点だけの画像になってしまいますが、このモードを使用すると、カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定するので、街の様子をきれいに写し出すことができます。このモードではシャッター速度が遅くなるため、撮影時は三脚などでカメラを固定してください。

SCENE　シーン撮影

モードメニューから［SCENE］を選択すると、以下のシーン撮影モードが選べます。☞「メニューの操作方法」（P.34）、「モードメニュー(撮影)」（P.37）

- モードメニュー上の［SCENE］は、モードダイヤルを**SCENE**に合わせたときのみ選択可能です。
- ［SCENE］をショートカットメニューに設定しておくと便利です。
☞「ショートカット設定」（P.111）

風景撮影

風景を撮るのに最適です。 メリハリのあるシャープな画像になりますので、自然のなかでの撮影には効果的です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

記念写真撮影

人物と背景を一緒に撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

セルフポートレート撮影

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。このモードでは、ズームは使えません。

スポーツ撮影

スポーツなどの動きのある被写体を撮るときに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

動画（ムービー）撮影

ムービーを撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。「ムービー(動画)を撮る」（P.55）

マイモード撮影

撮影に関する各種機能を設定し、モードダイヤルの モードに登録しておくことができます。現在使用している設定を モードで呼び出せるように登録することもできます。「マイモード設定ー自分で設定した内容を登録する」（P.114）

P　プログラム撮影

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、撮影します。フラッシュやホワイトバランスなどその他の機能は、自由に設定できます。

A　絞り優先撮影

絞り値を設定できます。シャッター速度は、カメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値（F値）を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。「絞り優先撮影」（P.64）

絞り値（F値）を小さくする

絞り値（F値）を大きくする

S シャッター優先撮影

シャッター速度を設定できます。絞り値は、カメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。
☞「シャッター優先撮影」(P.65)

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて、止まっているように撮影します。

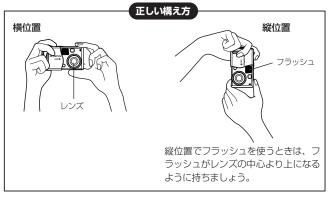
シャッター速度を遅くすると、動いているものは、ぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

M マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。このモードは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。☞「マニュアル撮影」(P.66)

カメラの正しい構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

縦位置でフラッシュを使うときは、フラッシュがレンズの中心より上になるように持ちましょう。

悪い例

レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。

シャッターボタンの押し方

1 **カメラを被写体に向けます。AFターゲットマークを被写体に合わせます。**
シャッターボタンを静かに軽く押します。これを半押しといいます。

- ピントと画像の露出（明るさ）が固定されると、液晶モニタとファインダ横の緑ランプが点灯します。

2 **半押しした状態から、シャッターボタンをさらに押し込みます。これを全押しといいます。**

- 撮影が行われ、カードアクセスランプが点滅します。
- 🎥 モードの場合はムービーの撮影が開始され、ファインダ横のオレンジランプが点灯します。

3 撮影の基本

静止画を撮る

液晶モニタを見て撮る

実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。また、液晶モニタに表示される絞り値、シャッター速度などの情報も確認できます。

液晶モニタの点灯中は電池の消耗が早くなります。液晶モニタを使用しないときは、こまめに消灯することをおすすめします。

使用可能なモード AUTO P A S M

1 レンズバリアを開きます。

- 電源ランプと液晶モニタが点灯します。液晶モニタが点灯しない場合は、OK を押してトップメニューを出し、［モニタオン］を選択して点灯させます。

「メニューの操作方法」（P.34）

2 液晶モニタを見ながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。

3 シャッターボタンを軽く押して(半押し)、ピントを合わせます。

- ピントと露出が固定されると、液晶モニタの緑ランプが点灯します。
- フラッシュが発光するときは、⚡ マークが点灯します。P.61

4 シャッターボタンを押し込みます(全押し)。

- メモリゲージの一番下が点灯し、カードアクセスランプが点滅して、カード記録が始まります。

3 撮影の基本

ヒント

・液晶モニタが自動的に消灯した

→3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。さらに15分後には自動的にレンズを収納します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。

・液晶モニタが見にくい

→晴天下のように明るい場所では、液晶モニタの画像に縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダを使って撮影してください。撮影画像への影響はありません。

ファインダを見て撮る

ファインダをとおして決めた構図よりも、やや広い範囲が撮影されます。

使用可能なモード AUTO P A S M

1 レンズバリアを開きます。
- 電源ランプが点灯します。
- 液晶モニタを消灯するときは、OK を押してトップメニューを出し、［モニタオフ］を選択して消灯させておきます。

☞「液晶モニタを消灯するには」（P.51）

2 ファインダ内のAFターゲットマークに被写体を合わせます。

3 シャッターボタンを軽く押して（半押し）、ピントを合わせます。
- ピントと露出が固定されると、ファインダ横の緑ランプが点灯します。
- フラッシュが発光するときは、ファインダ横のオレンジランプが点灯します。☞ P.61

4 シャッターボタンを押し込みます（全押し）。
- 撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

3 撮影の基本

ヒント

- **狙った被写体にピントが合わない。**
  ☞「ピントが合わないときは」（P.52）
- **緑ランプが点滅している。**
  → 被写体までの距離が近すぎます。20cm以上離れて撮影してください。スーパーマクロモードに設定すると、約4cmまで近付いて撮影できます。☞「スーパーマクロ撮影 ー 至近距離で撮る」（P.70）
  → 被写体の条件によってはピントが固定されないときがあります。☞「ピントが合わないときは」（P.52）
- **シャッターボタンを半押ししたときに、オレンジランプが遅く点滅している。**
  → フラッシュ充電中です。消灯するまでお待ちください。
- **撮影した画像をすぐに確認したい。**
  → ［レックビュー］を［オン］にします。☞「レックビュー ー 撮影後すぐに画像を確認する」（P.127）
  → ▶（再生）ボタンを押すと、撮影直後の画像が表示されます。☞ P.95

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。
- カメラがピント合わせの動作をしている間は、画像が正しく表示されない場合があります。
- 電源を切ったり電池やカードの交換を行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中には、絶対に電池／カードカバーを開けたり、別売のACアダプタを抜いたりしないでください。撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

液晶モニタとファインダの特徴

	液晶モニタ	ファインダ
長所	撮影する範囲を正しく確認できます。	手ぶれしにくく、周囲が明るくても写したいものがはっきり見えます。電池の消耗が少ないです。
短所	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。
こんな撮影に	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいときに。人物や花のアップの撮影、マクロ撮影などをするときに。	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいときに。

●ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。

●写すものとの距離が近いと、左図のように実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

液晶モニタを消灯するには

撮影モードでカメラの電源を入れたときに、液晶モニタが点灯するかしないか設定します。

1 を押します。
- トップメニューが表示されます。

2 を押します。

3 液晶モニタが消灯します。（モニタオフ）
- を押し、もう一度トップメニューを表示させて を押すとモニタが点灯します（モニタオン）。［モニタオフ］に設定されているときは、トップメニューでは［モニタオン］と表示されます。

ピントが合わないときは

ピントを合わせたいものがAFターゲットから外れる（中央にない）ときは、次の操作で構図の好きな場所にピントを固定して撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

ピントを合わせてから構図を決める（フォーカスロック）

使用可能なモード AUTO P A S M

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

- ピントが合いにくいものや、速く走るものの場合はまず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

2 シャッターボタンを半押しし、緑ランプの点灯を確認します。

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

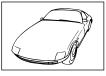
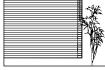
3 半押しの状態のまま撮影したい構図にします。

4 シャッターボタン押し込みます（全押し）。

ピントの合いにくいもの（オートフォーカスの苦手な被写体）

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロック（☞ P.52）した後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

緑ランプが点滅：このようなものにはピントが合いません

- 明暗の差がはっきりしない被写体
- 縦線のない被写体
- 画面中央に極端に明るいものがある被写体

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない：

- 遠いものと近いものが混在する被写体
- 動きの速い被写体
- ピントを合わせたいものが中央にない

3 撮影の基本

ムービー（動画）を撮る

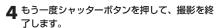
音声も同時に記録されます。撮影中はピントとズームが固定されますので、被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなる場合があります。
光学ズームは使用できません。

使用可能なモード 🎥

1 **モードダイヤルを 🎥 に合わせます。**
- 液晶モニタに撮影可能時間が表示されます。

撮影可能時間

2 **液晶モニタを見ながら構図を決めます。**

3 **シャッターボタンを押し込んで撮影を始めます。**
- ピントとズームは固定されます。
- ファインダ横のオレンジランプが点灯します。
- ムービー撮影中は 🎥 マークが赤く点灯します。

4 **もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。**
- 撮影可能時間が0になると、自動的に撮影を終了します。

ヒント
- **音声なしでムービー撮影したい。**
  → トップメニューから［ムービー録音］→［オフ］を選択します。
  ☞「ムービー録音」(P.83)
- **撮影中、ズームを使いたい。**
  →［デジタルズーム］を［オン］に設定します。
  ☞「デジタルズームを使う」(P.58)

注意

- フラッシュは使用できません。
- ムービー撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかります。
- 撮影可能時間は、画質やカードの空き容量などにより変わります。

長時間ムービー撮影をする場合のご注意

- 撮影中は、再度シャッターボタンを押してムービー撮影を終了しない限り、カードの空き容量がなくなるまで撮影は続きます。
- 一度のムービー撮影でカードの空き容量がなくなったときは、その画像を消去するか、パソコンにダウンロードしてから消去して、カードに空きを作ってください。

拡大して撮る

ズーム倍率3.0倍（光学ズーム35mm カメラ換算：38mm～114mm）の広角から望遠の撮影ができます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約12倍の撮影が可能です。
高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
ムービー撮影では光学ズームは使用できません。

光学ズームを使う

使用可能なモード AUTO P A S M

1 ズームレバーをたおします。

広角: ズームレバーをW側にしたとき

望遠: ズームレバーをT側にしたとき

デジタルズームを使う

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［デジタルズーム］→［オン］を選択し、Ⓞ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.34）

● 再度 Ⓞ を押すとメニューが終了し、液晶モニタに被写体が表示されます。

2 ズームレバーをT側にたおします。

● ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップすると、デジタルズームになります。

ズームの拡大率によって、上下に移動します。
デジタルズームの領域に入るとカーソルがオレンジになります。

注意

- モードでは、デジタルズームの倍率が最大3.0倍になります。
- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 液晶モニタを消灯させているときは、デジタルズームは使用できません。液晶モニタを点灯させるとデジタルズームが使用できる状態になります。

フラッシュ撮影

撮影状況・目的にあわせてフラッシュの設定をお選びください。フラッシュの発光量を補正することもできます。☞ P.63

フラッシュモードには、次の種類があります。

オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減（◉）

人物をフラッシュ撮影すると目が赤く写ることがありますが、［◉ 赤目軽減］に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります。

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光（ϟ）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使います。

注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

発光禁止（）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

注意
• 暗いところの撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、手ぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

スローシンクロ（⚡ SLOW　◉⚡ SLOW）

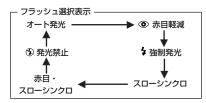
遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると背景を写し込むことができ、被写体と背景の両方を撮影することができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。
S 、**M** モードでは、設定されたシャッター速度で発光します。

■ **スローシンクロ：⚡ SLOW**
フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。

■ **赤目・スローシンクロ：◉⚡ SLOW**
スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。

フラッシュを使う

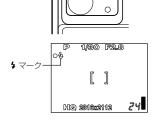
使用可能なモード AUTO P A S M My

1 使いたいフラッシュの表示が出るまで、繰り返し ⚡（フラッシュモード）ボタンを押します。

- 何も操作をしないで約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

2 撮影します。

- フラッシュが発光条件のときは、オレンジランプと ⚡ マークが点灯します。

フラッシュの到達距離

広角（W側）：約0.2m～3.4m
望遠（T側）：約0.3m～2.0m

モードによる機能制限

モード / フラッシュ	AUTO					P	A	S	M	My*
オート発光	○	○	○	○	○	○		—		○
赤目軽減	○	○	○	○	○	○		—		○
強制発光	—	○	○	○	○	○		—		○
スローシンクロ	—	○	○	○	○	○		○		○
赤目・スローシンクロ	—	○	○	○	○	○		○		○
発光禁止	○	○	○	○	○	○		○		○

○：設定可、—：設定不可　▭：初期設定

＊設定可能なフラッシュとその初期設定は、My モードに登録した撮影モード設定（**P**/**A**/**S**/**M**）によって変わります。

ヒント

- **オレンジランプまたは（フラッシュ充電中）マークが点滅した。**

  → フラッシュ充電中です。オレンジランプまたはマークが点灯するまでお待ちください。

- **フラッシュ自動発光時のシャッター速度について（オート発光・赤目軽減・強制発光）**

  → オレンジランプまたはマークが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度は手ぶれが起きにくい秒時に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。たとえば、ズーム位置が広角（W側）では1/30秒、望遠（T側）では1/100秒です。

注意

- 以下の場合、フラッシュ使用はできません。
  モード/オートブラケット撮影/スーパーマクロ撮影/パノラマ撮影
- マクロ撮影でズームが広角（W側）にあるときは特に、画面内で光の量がムラになることがあります。必ず再生して画像を確認してください。

フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減します。被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗差）を意図的につけたいときにもこの機能が便利です。

使用可能なモード P A S M

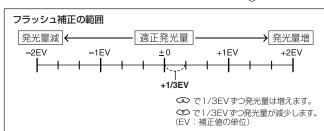
1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ補正」を選択します。

「メニューの操作方法」(P.34)

2 を押して調整し、を押します。

- 再度 を押すと、メニューが終了します。

初期設定： ±0

注意

- シャッター速度が速い場合は、フラッシュ補正の効果が十分に得られないことがあります。

絞り優先撮影 A

1 モードダイヤルをAに合わせます。

2 絞り値を設定します。

絞りを絞る（絞り値を大きくする）には△を押します。

絞りを開く（絞り値を小さくする）には▽を押します。

3 撮影します。

■ **絞り値が緑で表示される**
設定した絞り値で、適正露出が得られました。

■ **絞り値が赤く表示される**
設定した絞り値では、適正露出（正しい露出）が得られません。
▼が表示：▽を押して、絞り値を小さくします。
▲が表示：△を押して、絞り値を大きくします。

ズーム位置	設定
広角（W側）	F2.8＊～F8.0
望遠（T側）	F4.8＊～F8.0

＊ ズームの位置により、開放絞り値は変わります。

注意

• フラッシュがオート発光に設定されている際、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/100秒よりも低速にはなりません。

シャッター優先撮影　S

使用可能なモード　S

1 **モードダイヤルをSに合わせます。**

2 **シャッター速度を設定します。**

シャッター速度を速くするには △ を押します。

シャッター速度を遅くするには ▽ を押します。

3 **撮影します。**

■ **シャッター速度が緑で表示される**
設定したシャッター速度で、適正露出が得られました

■ **シャッター速度が赤く表示される**
設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。
▼が表示 ： ▽ を押して、シャッター速度を遅くします。
▲が表示 ： △ を押して、シャッター速度を速くします。

シャッター速度選択範囲： 4～1/1000（秒）

マニュアル撮影　M

使用可能なモード　M

1 **モードダイヤルをMに合わせます。**

2 **絞り値とシャッター速度を設定します。**

3 **撮影します。**

絞り値：広角（W側）→F2.8＊～F8.0
望遠（T側）→F4.8＊～F8.0
シャッター速度：8～1/1000（秒）

＊ ズームの位置により、開放絞り値は変わります。

■ **露出レベル**

- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出レベルが－3.0～＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- 露出レベルがー3.0EVよりも小さい、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。

注意
• シャッター速度を遅くする場合は、手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

フルタイムAF－ピント合わせの時間を短くする

シャッターボタンを半押ししなくても、ピント合わせの動作を繰り返します。ピント合わせの時間が短縮され、シャッターチャンスを逃すことなく撮影できます。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［フルタイムAF］→［オン］を選択し、㊫ を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 液晶モニタが点灯していないとフルタイムAFは作動しません。
- 再度 ㊫ を押すと、メニューが終了します。

注意

• フルタイムAFを設定しているときは、電池の消耗が早くなります。

測光の範囲を選択する

被写体の明るさを測る方法には、中央重点測光・スポット測光の2種類があります。

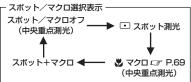
中央重点測光

画面の中央部に重点をおいた広い範囲を測光し、露出を決定します。同辺部の明るさを影響させたくないときに使用します。

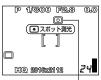
スポット測光

AFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに、背景の光などに影響されることなく、中央部の被写体を適当な露出にします。また、[スポット+マクロ] に設定すると、被写体に近づいてスポット測光ができます。

使用可能なモード AUTO P A S M

1 **[スポット測光] または [スポット+マクロ] が表示されるまで、（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。**

- 何も操作をしないで約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

スポット測光

2 **撮影します。**

初期設定：スポット／マクロオフ（中央重点測光）

マクロ撮影ー近くのものを撮る

マクロ撮影では、ズームをもっとも望遠(T)側にして、被写体に30cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます。
また、[スポット+マクロ]に設定すると、画面中央部（AFターゲットマークの範囲）を測光し、被写体が適正露光で撮影され、きれいな画像が撮れます。
☞「測光の範囲を選択する」（P.68）

通常撮影で撮った画像

マクロで撮った画像

使用可能なモード AUTO P A S M

1 **[マクロ］または［スポット+マクロ］が表示されるまで、（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。**

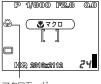
- 何も操作をしないで約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

マクロモード

2 **液晶モニタを見ながら撮影します。**

マクロ撮影距離
広角（W側）：20cm ～50cm
望遠（T側）：30cm ～50cm

初期設定：スポット／マクロオフ（中央重点測光）

注意

- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。

スーパーマクロ撮影－至近距離で撮る

マクロ撮影でも近付けない小さな被写体を撮影する際に使用します。広角(W)側で4cmの距離まで近付くことができます。

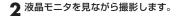
使用可能なモード

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スーパーマクロ］→［オン］を選択し、㊋ を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 ㊋ を押すと、メニューが終了します。

2 **液晶モニタを見ながら撮影します。**

注意

- スーパーマクロを［オン］にするとフラッシュは発光禁止になります。
- 被写体に近付いて撮影する場合、被写体が影になりやすく、ピントが合いにくくなることがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影できます。三脚を使って記念写真を撮るときなどに便利です。

使用可能なモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［セルフタイマー／リモコン］→［セルフタイマー］を選択し、㊎ を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 ㊎ を押すと、メニューが終了します。
- ［セルフタイマー／リモコン］がショートカットメニューとしてトップメニューに表示されている場合は、［セルフタイマー／リモコン］のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタンを押します。

☞「ショートカット設定」(P.111)

2 撮影します。

- セルフタイマーが作動します。
- セルフタイマー／リモコンランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒点滅した後シャッターが切れます。
- ムービーの場合、約12秒後に撮影が開始されます。ムービー撮影を終えるには、再度シャッターボタンを押します。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、㊎ を押します。セルフタイマー／リモコンランプが消灯します。

注意

- セルフタイマーは、撮影が終わると自動的に解除されます。
- セルフタイマーを使ってムービー撮影をした場合、撮影可能時間まで撮りきると撮影は自動的に終了します。

リモコン撮影（別売）

リモコンを使って撮影できます。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。

使用可能なモード AUTO P A S M

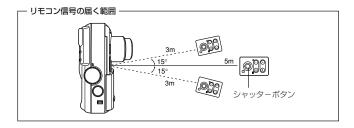
1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［セルフタイマー／リモコン］→［リモコン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。
- ［セルフタイマー／リモコン］がショートカットメニューとしてトップメニューに表示されている場合は、［セルフタイマー／リモコン］のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタンを押します。

☞「ショートカット設定」(P.111)

2 リモコンをカメラのリモコン受信窓に向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

- カメラのセルフタイマー／リモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。
- リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。手順1に従って、設定を［オフ］にしてください。

リモコン信号の届く範囲

ヒント

- **リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー/リモコンランプが点滅しない。**
  → カメラから離れすぎているためリモコン信号が届いていません。リモコン信号が届くところに移動して、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

注意

- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコン信号の届く範囲内であっても、撮影ができなくなることがあります。
- リモコン撮影で連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。リモコン信号の受信状態が悪くなると、連写が終了してしまうことがあります。

連写

連続撮影（連写）には、連写・AF連写・オートブラケットの3種類があります。

ドライブモード

単写　：1コマだけ撮影されます。
連写　：約1コマ／秒で最大3枚（HQモード時）の連写ができます。ピント・露出（明るさ）・ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます。
AF連写：1コマごとにピントを合わせます。連写速度は遅くなります。
BKT　：オートブラケット撮影をします。☞ P.75

連写・AF連写

使用可能なモード　P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［連写］［AF連写］から選択し、OK を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

2 **撮影します。**

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。

4 撮影の応用

オートブラケット撮影ー 1コマごとに露出を自動的に変えて連写する　BKT

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影をするほうが、良い仕上がりになる場合があります。
オートブラケット撮影では、1コマごとに露出を変えて撮影できます。変化させる露出差と連続撮影枚数は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が±1.0、x 3 の場合

−1.0

0.0

＋1.0

使用可能なモード　P A S

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［BKT］を選択して、を押します。
「メニューの操作方法」(P.34)

2 を押して、コマごとの露出（明るさ）の段階（±0.3、±0.7、±1.0）を選択し、を押します。

3 **⊝⊝ を押して、撮影枚数（x3、x5）を選択し、㊙ を押します。**

- 画像サイズと画質の組み合わせにより、x3しか選択できない場合があります。
- ㊙ を2回押すとメニューが終了します。

4 **撮影します。**

- 設定枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

注意

- 連写・AF連写をすると、フラッシュモードの赤目軽減発光はオート発光に変わります。また、赤目スローシンクロモードはスローシンクロモードに変わります。
- オートブラケット撮影ではフラッシュは発光禁止になります。
- 画質モードがTIFFのとき、連写・AF連写・オートブラケット撮影はできません。
- オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと、続けて次の撮影をすることはできません。
- 連写中に電池残量がなくなると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- 連写撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかることがあります。

パノラマ撮影

当社製xDピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が行えます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

使用可能なモード

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［パノラマ］を選択して、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 液晶モニタを見ながら、十字ボタンでつなげる方向を指定します。

▷ ：次の画像を右につなげます。

◁ ：次の画像を左につなげます。

△ ：次の画像を上につなげます。

▽ ：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

3 被写体の端が重なるように撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスは1枚目で決定されます。1枚目に太陽などの光の強い被写体を入れた撮影をしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

端の枠に前に撮影した画像の合わせるべき部分は残っていません。撮影時には、枠の位置の画像を覚えておき、次のコマの枠の画像と同じになるよう撮影してください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

4 パノラマ撮影を終了するには、 Ⓞ を押します。

● 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注意

- MY モードがA・S・Mに設定されていると、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影では、フラッシュ、連写は使えません。
- 10枚撮り終えると、警告画面が出ます。それ以上は撮影できません。

- パノラマ撮影機能付きのカード以外で、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。
- 画質モードをTIFFでパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG形式の画像で記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマ撮影は解除され通常の撮影モードに戻ります。

合成ツーショット撮影－2コマの画像を合成する

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

再生時の画面

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［合成ツーショット］を選択して、▷を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 液晶モニタに合成ツーショット撮影画面が表示されます。

2 **1枚目を撮影します。**

- 撮影した画像は、合成時には左側に配置されます。
- 1枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは OK を押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。

3 **続けて2枚目を撮影します。**

- 撮影した画像は、合成時には右側に配置されます。

4
撮影の応用

注意

- 合成ツーショット撮影中は、次の機能は使えません。
  連写・AF連写・オートブラケット撮影・パノラマ撮影・スチル録音・ヒストグラム表示
- 画質モードをTIFFで合成ツーショット撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG形式の画像で記録されます。
- 1枚撮影後にスリープモードに入ると、合成ツーショット撮影は解除されます。1枚目に撮影した画像は記録されません。

ファンクション撮影－モノクロ／セピア

特殊効果をつけて撮影します。
モノクロ：白黒に撮影できます。
セピア　：セピア色に撮影できます。

使用可能なモード　P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ファンクション撮影］→［モノクロ］か［セピア］を選択し、㊙を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

● 再度㊙を押すと、メニューが終了します。

注意

- ファンクション撮影を設定すると、ホワイトバランスの設定はできません。

スチル録音

静止画撮影時に音声を録音します。シャッターが閉じてから約0.5秒後に録音を開始し、約4秒間録音します。［スチル録音］を［オン］に設定すると、撮影後、毎回自動的に録音します。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スチル録音］→［オン］を選択し、OK を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

● 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

2 **シャッターボタンを押して録音が始まったら、カメラのマイクを録音する対象に向けます。**

● 録音中を示すバーが表示されます。

ヒント

• スチル録音／ムービー録音した画像は液晶モニタに ♪ が表示されます。録音した画像を再生すると、音声がスピーカから出力されます。音量は調節することができます。☞「再生音量－音量を調整する (P.125)

• 静止画再生中に、音声をあとから録音することができます。また、撮影中に録音済みの音声を録音し直すこともできます。
☞「音声の録音」(P.104)

注意

- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。
- 録音中は次の撮影ができません。
- 以下の場合は、録音できません。
  画質モードがTIFF に設定されている／連写・AF 連写・オートブラケットが設定されている／パノラマ撮影／合成ツーショット撮影
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。
- カードの空き容量が不足している場合は、録音できないことがあります。

ムービー録音

ムービー撮影と同時に音声を録音します。

使用可能なモード

1 **トップメニューから［ムービー録音］→［オン］を選択し、㊙ を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 ㊙ を押すと、メニューが終了します。

2 **撮影と同時に録音が開始されます。**

注意

- ムービー撮影中はズームが使えません。ただし、［ムービー録音］を［オフ］にすると、ムービー撮影中でもデジタルズームは使えます。
- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。

別売の防水プロテクタを使用する

防水プロテクタをカメラに取り付けて撮影する際に設定します。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［アクセサリ］→［ ］を選択し、 を押します。

「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 を押すと、メニューが終了します。

注意

- 防水プロテクタを取り付けた場合、ピント合わせに時間がかかることがあります。
- ［アクセサリ］を［ ］にすると、フルタイムAFは解除されます。

画質モード

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。各画質モードでの画像サイズやカードへの記録可能枚数・時間については、86ページの表をご覧ください。

画像が精細になる

画像サイズが大きくなる（記録できる枚数が少なくなる）

用途	画質（圧縮率） 画像サイズ	非圧縮	低圧縮	高圧縮
プリントサイズに合わせて選択	2816×2112	TIFF	SHQ	HQ
	2560×1920 2272×1704 2048×1536 1600×1200		SQ1 高画質	SQ1 標準
	1280×960 1024×768		SQ2 高画質	SQ2 標準
小さいプリントやホームページ用	640×480			

●画像サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

●圧縮率

TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

●画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

●画質モードとカードの記録枚数

記録可能枚数は、カードの記録容量÷ファイルサイズでおおよその数が計算できます。また、カードをカメラに入れたとき、液晶モニタに表示されます。

静止画画質モード

画質モード	画質サイズ		圧縮	ファイル形式	撮影可能枚数（枚） 32MB 音声あり	撮影可能枚数（枚） 32MB 音声なし	ファイルサイズ (MB)
TIFF	2816 x 2112		非圧縮	TIFF	—	1	約17.9
	2560 x 1920				—	2	約14.8
	2272 x 1704				—	2	約11.6
	2048 x 1536				—	3	約9.5
	1600 x 1200				—	5	約5.8
	1280 x 960				—	8	約3.7
	1024 x 768				—	13	約2.4
	640 x 480				—	34	約0.9
SHQ	2816 x 2112		低圧縮	JPEG	7	7	約4.4
HQ	2816 x 2112		高圧縮		21	21	約1.5
SQ1	2560 x 1920	高画質	*		8	8	約3.7
		標準			25	26	約1.2
	2272 x 1704	高画質			11	11	約2.9
		標準			32	33	約1.0
	2048 x 1536	高画質			13	13	約2.3
		標準			39	40	約0.8
	1600 x 1200	高画質			22	22	約1.4
		標準			62	66	約0.5
SQ2	1280 x 960	高画質			34	35	約0.9
		標準			94	104	約0.3
	1024 x 768	高画質			52	55	約0.6
		標準			132	153	約0.2
	640 x 480	高画質			124	142	約0.2
		標準			284	398	約0.1

＊高画質→低圧縮/標準→高圧縮

ムービー画質モード

カードがいっぱいになるまで、ムービーを記録します。

● 使用しているカードで記録できる撮影時間（撮影可能時間）は、ムービー撮影（）モードに設定したときに表示されます。

画質モード	画像サイズ
HQ	320 x240（15コマ/秒）
SQ	160 x120（15コマ/秒）

注意
• カードの撮影可能枚数はおおよその目安です。
• 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても、液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。

静止画の画質モードを選択する

使用可能なモード AUTO P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［画質モード］→［TIFF］［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

● TIFF、SQ1またはSQ2の画像サイズを選択したいときは、モードダイヤルを AUTO 以外にして操作します。

●［画質モード］がショートカットメニューとしてトップメニューに表示されている場合は、［画質モード］のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタンを押します。

☞「ショートカット設定」(P.111)

SHQまたはHQを選択した場合　手順3へ

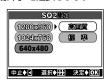
画質モード

5 画像・画質・露出の調整

2 手順1で［TIFF］を選択

⊝⊝ を押して画像サイズを選択します。

手順1で［SQ1］または［SQ2］を選択

① ⊝⊝ を押して画像サイズを選択し、▷ を押します。
② ⊝⊝ を押して［高画質］または［標準］を選択します。

3 ㊋ を押して選択を確定します。

- 再度 ㊋ を押すと、メニューが終了します。

ムービーの画質モードを選択する

使用可能なモード 🎥

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［画質モード］→［HQ］［SQ］から選択し、㊋ を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 ㊋ を押すと、メニューが終了します。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれノイズが増えて画像が粗くなります。

オート：被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。

64/100/200/400：感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。感度が高くなるにつれて、より暗いところで撮影ができます。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ISO感度］を選択して、△▽を押して最適なISO感度を選択し、OKを押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

● 再度OKを押すと、メニューが終了します。

モードによる機能制限

ISO感度＼モード	P	A S M	My*	動画
オート	○	―	○	○
64	○	○	○	○
100	○	○	○	○
200	○	○	○	○
400	○	○	○	○

○：設定可、―：設定不可　▭：初期設定

＊設定可能なISO感度とその初期設定は、Myモードに登録した撮影モード設定（**P**/**A**/**S**/**M**）によって変わります。

注意

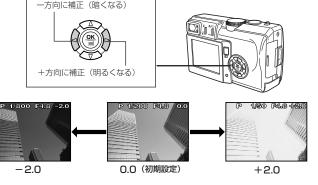
- ISO感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- ISO感度がオートのとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートのとき、被写体が遠くフラッシュが届かない場合、自動的に感度が上がります。
- **P**・**A**・**S**モードでは、フラッシュをスローシンクロにしたとき、設定したISO感度により最長シャッター速度が変わります。

露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。補正値を設定して露出を調整します。液晶モニタで露出を補正した画像を確認できます。

使用可能なモード P A S

1 を押して露出補正をします。

−2.0　0.0（初期設定）　+2.0

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、+に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆に−に補正すると効果的です。

注意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正で補正しきれないときがあります。

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球のひかりがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスの設定を変えることで、光源による色の違いを見たままの色に表現することができます。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［ホワイトバランス］を選択します。

2 撮影状況に合わせて設定を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

● 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

使用可能なモード

1 トップメニューから［ホワイトバランス］を選択し、撮影状況に合わせて設定を選択します。

2 OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

● 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

オート　：光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。
晴天　：晴天時の撮影
曇天　：曇天時の撮影
電球　：電球の灯りのもとでの撮影
蛍光灯：蛍光灯の灯りのもとでの撮影

注意

- 通常ホワイトバランスは［オート］で使用することをおすすめします。
- 特殊な光源下ではホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［シャープネス］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 △▽を押して、±2段階の調整ができます。

- **＋方向に補正：**画像の輪郭がよりシャープになり画像が鮮やかになります。プリントなど観賞用に適しています。
  ー方向に補正：画像の輪郭がソフトになります。パソコンでの加工に適しています。
- 設定が終わったら、OKを押します。再度OKを押すと、メニューが終了します。

注意

- ＋方向に調整しすぎると、画像にノイズが目立つ場合があります。

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［コントラスト］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 △▽ を押して、±2段階の調整ができます。

- **＋方向に補正**：明暗の差がより大きくなり、メリハリのある画質になります。
  －方向に補正：明暗の差がより小さくなり、比較的柔らかい印象の画質になります。パソコンでの加工に適しています。
- 設定が終わったら、OK を押します。再度 OK を押すと、メニューが終了します。

ノイズリダクション

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。この機能をオンに設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
シャッター速度の設定が1/2秒より遅いときに動作します。

ノイズリダクション：オフ

ノイズリダクション：オン

ここでの画像は、ノイズリダクションの効果を示している例です。
実際の画像とは異なります。

使用可能なモード P A S M My

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ノイズリダクション］→［オン］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

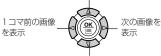
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

注意

- ☆ モードに設定していると、［ノイズリダクション］は常に［オン］に固定されています。
- ［ノイズリダクション］を［オン］に設定すると、撮影後にカメラがノイズを取り除く動作をするため、撮影時間が通常の約2倍になります。この間、次の撮影はできません。
- ［ノイズリダクション］の設定が［オン］のとき、連写・AF連写・オートブラケット撮影はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。
- シャッター速度が遅い撮影では、三脚の使用をおすすめします。

静止画を見る

1 ▶ （再生）**ボタンを押します。**
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。（1コマ再生）
- カメラが撮影モードでも、すぐに再生モードに切り替わります。

2 他の画像を再生するには、十字ボタンを使います。
- ムービーには🎥マークがついています。
☞ P.100

3 再生をやめるときは、▶ ボタンを押します。
- 液晶モニタが消灯して、電源が切れます。
- 手順1で撮影モードから再生をはじめた場合、撮影モードに戻ります。シャッターボタンを半押ししても、撮影モードに戻ることができます。

注意

・3分以上何も操作をしないと、電源が切れます。

クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍、3.5倍、4倍と段階的に拡大表示します。

1 **拡大したい静止画を選択します。**
- 🎥のついた画像は、拡大できません。

2 **ズームレバーを 🔍 側にたおします。**
- たおすたびに段階的に拡大表示されます。
- 拡大表示中に十字ボタンを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。

側にたおすと、1倍に戻ります。

注意
- クローズアップ再生中に自動再生を行うと、クローズアップ再生は解除されます。
- 拡大した状態で、画像を保存することはできません。

インデックス再生

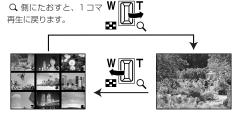
液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。また、分割数の変更ができます。☞「インデックス表示の分割数を変更する」(下記参照)

1 1コマ再生中にズームレバーを ▦ 側にたおします。
- インデックス再生になります。
- インデックス再生中に十字ボタンを押すと、選択枠が移動します。

  ◁ ：前のコマへ移動

  ▷ ：次のコマへ移動

  △ ：左上の画像の前のインデックスを表示

  ▽ ：右下の画像の次のインデックスを表示

インデックス表示の分割数を変更する

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマから選択します。

1 トップメニューから、[モードメニュー] → [設定] → [インデックス表示] →[4]、[9]、[16] から選択し、㊊ を押します。
☞「メニューの操作方法」(P.34)
- 再度 ㊊ を押すと、メニューが終了します。

4分割に設定した場合

6 再生

自動再生

カードに記録されている静止画像を、1枚ずつ自動的に再生させることができます。ムービー画像は、最初のコマが静止画と同じように再生されます。

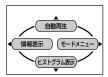
1 静止画を表示させます。

2 トップメニューで ⏶ を押して［自動再生］を選択します。

- 自動再生が始まります。
- クローズアップ再生時に自動再生をすると、1倍に戻り自動再生を開始します。

3 OK を押すと、終了します。

- 自動再生は、OK を押すまで繰り返されます。

注意

• 長時間に渡って自動再生を行う場合には、別売のACアダプタのご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、電源が切れます。

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。反時計方向に90度、時計方向に90度の回転ができます。

1 回転したい画像を表示します。

- 🎥マークのついた画像は、回転できません。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［回転表示］を選択して、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

3 △▽を押して［+90°］［−90°］から選択し、OKを押します。

- 回転した画像が保存されます。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

［−90°］

［0°］

［+90°］

注意

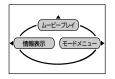
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記憶されます。
- プロテクトのかかった画像は回転再生ができません。☞ P.106

6 再生

ムービーを見る

撮影したムービーを再生したり、編集したりすることができます。

1 **🎥マークのついた画像を表示します。**
☞ P.95

2 **トップメニューから［ムービープレイ］を選択します。**
☞「メニューの操作方法」(P.34)

3 **△▽ を押して、［ムービー再生］を選択します。**
[ムービー再生]：ムービーを再生します。
[インデックス作成]：ムービーを9分割して一つの画面に表示します。☞ P.102

4 **OK を押すと、再生が始まります。**
- 最後まで再生が終わると、ムービーの先頭に戻ります。
- 再生中は早送り／早戻しができます。
  ▷：早送りします。
  押すたびに速度が2倍速 → 20倍速 → 1倍速の順に切り換わります。
  ◁：早戻しします。
  押すたびに2倍速 → 20倍速 → 1倍速の順に切り換わります。

6 再生

5 **［ムービー再生］画面が表示されます。**
⊜⊝ を押して、項目を選択します。

再生　：もう1度再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止　：再生を中止します。

6 **Ⓞ を押して選択した項目を実行します。**

- ［中止］を選択したときは、［ムービープレイ］画面が表示されます。［ムービープレイ］画面から抜けるには、◁ を押します。

［コマ送り］を選択したときの操作方法

△：ムービーの先頭のコマを表示します。
▽：ムービーの末尾のコマを表示します。
▷：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
◁：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
Ⓞ：［ムービー再生］画面が表示されます。

注意

• カードアクセスランプが点滅しているときは、カードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。カードアクセスランプの点滅中は、絶対にカードカバーを開けないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、カードが破壊され使用できなくなる場合があります。

インデックス作成

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9分割して一つの画面にインデックス表示することができます。
インデックス表示された画像は、ムービー撮影時とは異なった画質モードで静止画として保存されますのでご注意ください。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ2 （1024 x 768）
SQ	SQ2 （640 x 480）

3 **P.100の手順3で［インデックス作成］を選択し、㊊ を押します。**

- ［インデックス作成］画面が表示されます。
- アクセス中は、カードアクセスランプが点滅します。

4 **△▽ を押して［決定］を選択し、㊊ を押します。**

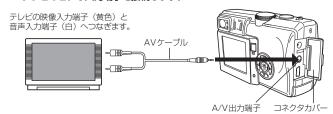
- 作成したインデックス画像がカードに記録されます。
- ［中止］を選択したときは、［ムービープレイ］画面が表示されます。
- ［ムービープレイ］画面から抜けるには、◁ を押します。

注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- カードの空き容量がない場合、インデックス作成はできません。

テレビでの再生

付属のAVケーブルでテレビに接続して画像を再生します。静止画とムービーの両方の再生ができます。

1 カメラとテレビの電源を切り、AVケーブルでカメラのA/V出力端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。

2 テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。
- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 ▶（再生）ボタンを押して、カメラの電源を入れます。
- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。

ヒント

- クローズアップ再生、インデックス再生、自動再生などの再生機能が可能です。
- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

注意

- カメラのビデオ出力信号が、お使いのテレビの映像信号方式に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力－ビデオ出力方式を選択する」(P.128)
- AVケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタが自動的に消灯します。
- お使いのテレビによっては画像の表示位置が中央からずれる場合があります。
- テレビには画像全体を表示するため、少し小さめに表示されます。それにより、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠がプリントされることがあります。

音声の録音

撮影済みの静止画に音声を録音（アフレコ）します。また、録音済みの音声を新たに録音し直すこともできます。録音できる時間は1画面につき約4秒間です。

1 **音声を録音したい静止画を選択します。**

2 **トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［録音］を選択します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

3 **▷を押すと［スタート］が表示されます。**

4 **カメラのマイクを録音したい対象に向けて OK を押すと、録音が開始されます。**

- 録音中を示すバーが表示されます。

注意

- 録音対象がカメラから約1m以上はなれると、きれいに録音されません。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- カード残量がない場合（警告画面が表示されるカード）では、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が録音されることがあります。
- 一度録音したら音声のみを消すことはできません。音声を入れず（無音状態）再録音してください。

静止画の編集－リサイズ

撮影した画像のサイズを640x480、または320x240に変更して別の画像として保存します。メールに添付して送る場合など、画像のデータ容量を小さくしたいときにお使いください。

1 **編集したい静止画を表示します。**

2 **トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［リサイズ］を選択します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- ［リサイズ］画面が表示されます。

3 **△▽を押して画像サイズを選択し、Ⓞを押します。**

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。
- ［リサイズ］を中止するときは［中止］を選択し、Ⓞを押します。

- 次の場合、編集はできません。
  - ― カードの空き容量がないとき
  - ― ムービー画像
  - ― TIFF で記録されている画像
  - ― パソコンで編集された画像
- 撮影時の画像サイズが640x480の場合、［640x480］の設定はできません。

プロテクト

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 **プロテクトをかけたい画像を表示します。**

2 **(プロテクト)ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。**

- 画像にプロテクトがかかると、マークが表示されます。
- プロテクトを解除するには、再度ボタンを押します。

ボタン

プロテクトマーク

注意

・プロテクトされた画像は、1コマ消去／全コマ消去できませんが、フォーマットをするとすべて消去されます。

画像の消去

撮影した画像を消去することができます。
再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去があります。

注意：

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「プロテクト」(P.106)

1コマ消去

再生している画像を消去します。他の画像も消去したいときには、1コマ消去を繰り返します。

1 **消去したい画像を表示します。**

2 **（消去）ボタンを押します。**
- ［1コマ消去］画面が表示されます。

3 **を押して、［消去］を選択します。**
- 消去を中止するには、［中止］を選択し、を押します。

4 **を押して、1コマ消去を実行します。**
- 画像が消去され、メニューが終了します。

6
再生

全コマ消去

カード内のすべての画像を消去します。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 △を押して［全コマ消去］を選択し、OKを押します。

3 △を押して、［消去］を選択し、OKを押します。

- 画面に処理中を示すバーが表示され、すべての画像が消去されます。

設定保持－電源を切っても設定を残す

電源を切った後も、変更した設定値を保持することができます。［設定保持］が適用される機能については次頁の表を参照してください。
［設定保持］の［する］［しない］の設定は、すべてのモードで共通です。いずれかのモードで[設定保持]を設定すると、撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

しない　：電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。（初期状態）
例）［画質モード］を［SQ1］に変更しても、［設定保持］が［しない］に設定されていると、電源を入れ直したときに初期設定のHQに戻ります。

する　　：電源を切っても変更した設定値は保持されます。

使用可能なモード　P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定]→［設定保持］→［する］または［しない］を選択し、OK を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

注意

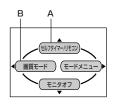
- ［マイモード設定］の設定内容およびモードメニューの設定タブの機能（設定保持、　、ビープ音など）は、［設定保持］が［しない］に設定されていても初期設定に戻りません。

[設定保持]：[しない]で設定が元に戻る機能とその設定

設定項目	初期設定	参照ページ
SCENE	風景	P.42
絞り値	F2.8	P.64
シャッター速度	1/1000	P.65
露出補正	±0	P.90
モニタ	オン	P.51
ズーム位置	38mm	P.57
フラッシュ＊1	オート＊2	P.59
スポット／マクロ＊1	オフ	P.68、69
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.71、72
ドライブ	単写	P.74
ISO感度	オート	P.89
フラッシュ補正	±0	P.63
ノイズリダクション	オフ	P.94
デジタルズーム＊1	オフ	P.58
フルタイムAF	オフ	P.67
アクセサリ	オフ	P.84
スーパーマクロ	オフ	P.70
スチル録音	オフ	P.81
ムービー録音	オン	P.83
ファンクション撮影	オフ	P.80
撮影情報表示	オフ	P.117
ヒストグラム表示	オフ	P.119
画質モード	HQ	P.85
ホワイトバランス	オート	P.91
シャープネス	±0	P.92
コントラスト	±0	P.93

＊1 [設定保持]を[する]に設定しても、撮影モードによっては設定を保持しません。
＊2 各モードによって異なります。

ショートカット設定

AUTO モードと 🎥 モード以外の撮影モードで、トップメニューのショートカットメニュー(A、B)を登録します。
使用頻度の高い機能をショートカットメニューとして登録しておくと、ダイレクトにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

初期設定

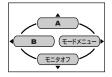
A：セルフタイマー／リモコン
B：画質モード

登録できるメニュー機能	参照ページ
SCENE	P.42
セルフタイマー／リモコン	P.71、72
ドライブ	P.74
ISO感度	P.89
フラッシュ補正	P.63
ノイズリダクション	P.94
デジタルズーム	P.58
フルタイムAF	P.67
アクセサリ	P.84
スチル録音	P.81

登録できるメニュー機能	参照ページ
スーパーマクロ	P.70
パノラマ	P.77
合成ツーショット	P.79
ファンクション撮影	P.80
撮影情報表示	P.117
ヒストグラム表示	P.119
画質モード	P.85
ホワイトバランス	P.91
シャープネス	P.92
コントラスト	P.93

ショートカットメニューを登録する

トップメニューの [A] [B] の位置に当てはまる項目をそれぞれ設定します。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ショートカット設定］を選択し、を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 **を押して [A] または [B] を選択し、を押します。**

3 **を押して設定する機能を選択し、を押します。**

- ショートカットメニューが設定されました。
- 再度 を押すと、メニューが終了します。

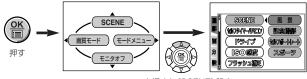
ショートカットメニューを使う

1 を押して、トップメニューを表示させます。

- 登録したショートカットメニューがトップメニュー上に表示されます。

2 または を押して、ショートカットメニューを選択します。

- 設定した機能の設定画面までジャンプします。

（例）ショートカットメニューAに [SCENE] を登録した場合

を押すと [SCENE] 設定
画面までジャンプします。

注意

• 各モードで異なった登録をすることはできません。

マイモード設定－自分で設定した内容を登録する

撮影に関する機能を自由に設定し、その設定内容をモードダイヤルの MY モードに登録します。現在使用している設定を MY モードで呼び出せるように登録しておくこともできます。

モードダイヤルを MY にすると、登録された設定内容で撮影することができます。

マイモード設定ができる項目とその初期設定

設定項目	初期設定	参照ページ
P/A/S/Mモード	P	P.43、44
絞り値	F2.8	P.64
シャッタ速度	1/1000	P.65
露出補正	0.0	P.90
モニタ*1	オン	P.51
ズーム位置*2	38mm	P.57
フラッシュ	オート発光	P.59
スポット／マクロ	オフ	P.68、69
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.71、72
ドライブ	単写	P.74
ISO感度	オート	P.89
フラッシュ補正	0.0	P.63

設定項目	初期設定	参照ページ
ノイズリダクション	オフ	P.94
デジタルズーム	オフ	P.58
フルタイムAF	オフ	P.67
アクセサリ	オフ	P.84
スチル録音	オフ	P.81
スーパーマクロ	オフ	P.70
ファンクション撮影	オフ	P.80
撮影情報表示	オフ	P.117
ヒストグラム表示	オフ	P.119
画質モード	HQ	P.85
ホワイトバランス	オート	P.91
シャープネス	±0	P.92
コントラスト	±0	P.93

*1 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。
*2 ズーム位置の設定は、38/50/70/114mmの中から選択できます。（表示されるズーム位置は35mmフィルムの換算値です）

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［マイモード設定］を選択して、を押します。**

「メニューの操作方法」(P.34)

2 **を押して設定の種類を選択し、を押します。**

現設定　：現在のカメラの設定を一括して登録します。

クリア　：現在登録されている設定を初期設定に戻します。

カスタム：ひとつずつ機能を設定します。

3 手順2で［現設定］を選択

を押して［登録］を選択し、 を押します。

- モードに現在のカメラの設定が登録されます。

手順2で［クリア］を選択

を押して［クリア］を選択し、 を押します。

- モードに登録されている設定が初期設定に戻ります。

手順2で［カスタム］を選択

を押して モードに登録するカスタム設定項目を選択し、 を押します。

- カスタム設定項目 ☞「マイモード設定ができる項目とその初期設定」(P.114)

を押してカスタム設定項目の設定を変更し、 を押します。

- 設定内容が保存されます。
- 必要に応じて他のカスタム設定項目の設定も変更します。

4 すべての設定が完了したら を押します。

- 手順2の画面に戻ります。
- 再度 を押すと、メニューが終了します。

注意

- ［現設定］を選択したとき、ズームの位置は、［マイモード設定］内の［ズーム位置］の4つの設定値のうち、現在使用しているズームの設定値に近い値になります。

情報表示－画像の詳細情報を表示する

画像の詳細情報を3秒間表示します。表示される情報の内容については、「液晶モニタの表示」(P.16)を参照してください。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［撮影情報表示］→［オン］か［オフ］から選択し、OK を押します。**

「メニューの操作方法」(P.34)

- ［オフ］のときでも、機能を設定した後、3秒間は詳細情報が表示されます。
- 再度 OK を押すと、メニューが表示されます。

例：撮影モード（静止画）のとき

オフのとき

オンのとき

使用可能なモード ▶

1 トップメニューで ◁ を押すと詳細情報が表示されます（オン）。

- 再度 OK を押してトップメニューを表示させて、◁ を押すと詳細情報が表示されなくなります（オフ）。

例：再生モード（静止画）のとき

オフのとき

オンのとき

注意

- このカメラ以外で撮影した画像は、情報表示オン時でもすべての情報が表示されないことがあります。
- ヒストグラム表示が設定されているときは、情報表示オン／オフに関わらずヒストグラムが表示されます。

ヒストグラム表示－画像の輝度分布を表示する

静止画撮影時および再生時に液晶モニタに写っている画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示します。画像上に直接黒つぶれ部／白とび部を表示することもできます。
撮影時は、被写体の明るさのコントラストが分かるので、より厳密に露出をコントロールすることができます。再生時は、撮影した画像の輝度分布を表示します。
ヒストグラム表示は、撮影モードと再生モードで別々に設定することができます。

撮影モード時のヒストグラム表示

明るい画像のとき

赤の枠内に多く入ると、画像は白くとび気味に写ります。

暗い画像のとき

青の枠内に多く入ると、画像は黒くつぶれ気味に写ります。

再生モード時のヒストグラム表示

使用可能なモード　P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ヒストグラム表示］→［オン］を選択し、OK を押します。

「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

1 トップメニューで ▽ を押すとヒストグラム表示になります（オン）。

- 再度 OK を押してトップメニューを表示させて、▽ を押すとヒストグラム表示が消えます（オフ）。

注意

- ヒストグラム表示を常時オンに設定していても、以下のときはヒストグラムが表示されません。
  Mモード／パノラマ撮影時／合成ツーショット撮影時
- 露出補正中にヒストグラム表示のオン／オフを切り換えることができます。「露出補正」(P.90)
- 撮影時に表示されたヒストグラムは、再生時に表示されるものとは異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した画像は、ヒストグラム表示できないことがあります。

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードを使用機器で書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードをお使いになる場合は、あらかじめこのカメラでフォーマットしてください。

フォーマットするとプロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは大切なデータが記録されていないことを確認してください。

使用可能なモード AUTO

1 トップメニューから［カードセットアップ］を選択します。

☞「メニューについて」(P.33)

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択します。▷を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

使用可能なモード ▶

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択して、▷を押します。▽で［フォーマット］を選択し、OKを押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 ⊜ **を押して［フォーマット］を選択します。**

3 ㊙ **を押して、フォーマットを実行します。**

● 画面に処理中を示すバーが表示されます。

注意

• フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。

電池／カードカバーを開ける／電池を取り外す／ACアダプタの抜き差しをする（カメラに電池が入っている、いないにかかわらず絶対にしないでください。）

モニタ調整－液晶モニタの明るさを調整する

液晶モニタの明るさを見やすいように調節します。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［モニタ調整］を選択し、を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 **液晶モニタを見ながら、を押して明るさを調整し、設定が決まったらを押します。**

- を押すと明るくなり、を押すと暗くなります。
- 再度を押すと、メニューが終了します。

ビープ音－警告音を設定する

カメラが発する警告音の音量を［オフ］［小］［大］から選択します。音を消す場合は［オフ］に設定してください。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビープ音］→[オフ]または［小］［大］から選択し、を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度を押す、とメニューが終了します。

シャッター音ーシャッター音を設定する

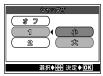
シャッターボタンを押して撮影したときに発するシャッター音の音色を2種類から選びます。さらに、それぞれの音量を［小］［大］から選択できます。ご購入時は音色［1］、音量［小］に設定されています。音を消す場合は［オフ］に設定してください。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［シャッタ音］を選択し、▷を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 **［1］または［2］を選択して▷を押し、さらに［小］または［大］を選択してOKを押します。**

- 無音に設定する場合は[オフ]を選択し、OKを押します。
- メニューが消えるまで繰り返しOKを押します。

再生音量－音量を調整する

静止画の音声メモやムービー再生時の音量を設定します。音量は［小］［大］から選択できます。音を消す場合は［オフ］に設定してください。

使用可能なモード ▶

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［再生音量］を選択し、▷を押します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

2 **△▽を押して音量を選択し、OKを押します。**

● 再度OKを押すと、メニューが終了します。

PW ON/OFF設定－起動時と終了時の画面と音量を設定する

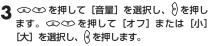
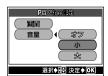
電池を入れたときや切ったときに現れる起動・終了時の画面を表示するかどうかを選択したり、そのときの音量を調節することができます。

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［PW ON/OFF設定］を選択し、 を押します。**

「メニューの操作方法」(P.34)

2 **を押して［画面］を選択し、 を押します。 を押して［オフ］または［オン］を選択し、 を押します。**

オフ　画面表示なし
オン　画面表示あり

3 **を押して［音量］を選択し、 を押します。 を押して［オフ］または［小］［大］を選択し、 を押します。**

- 無音にする場合は、［オフ］を選択します。
- 設定が終了したら を押します。メニューが消えるまで繰り返し を押します。

レックビュー－撮影後すぐに画像を確認する

撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうかを設定します。

オン： 撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。
オフ： 記録中の画像は表示しません。被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

使用可能なモード　P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［レックビュー］→［オン］［オフ］から選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

● 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

スリープ時間－待機状態に入るまでの時間を設定する

カメラを何も操作しないで、設定した時間が過ぎるとカメラはスリープモード（待機状態）になります。スリープを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどいずれかのボタンを操作してください。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［スリープ時間］→［30秒］［1分］［3分］［5分］［10分］から選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

注意

- 再生モードでは、常に3分で電源が切れます。

ビデオ出力－ビデオ出力方式を選択する

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCかPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、その地域の方式に設定を合わせてください。[ビデオ出力]はビデオケーブルを接続する前に選択してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビデオ出力］→［NTSC］［PAL］から選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.34)

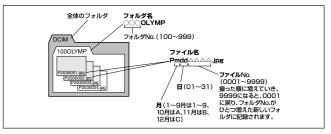
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

主な国と地域のテレビ映像信号方式

カメラをテレビに接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC ：日本、韓国、台湾、北米
PAL ：中国、ヨーロッパ諸国

ファイル名メモリー－ファイル名の付け方を設定する

撮影した画像はカードに記録されるときに、ファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

オート
カードを入れ換えても、ファイルNo.は通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNo.と重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNo.に続いた番号が付けられます。
リセット
新しいカードを入れたときは、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo.に続けて番号が付けられます。

使用可能なモード P A S M

1 **トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ファイル名メモリー］→［リセット］［オート］から選択し、OK を押します。**
☞「メニューの操作方法」(P.34)
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

注意

- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

ピクセルマッピング－画像処理機能をチェックする

CCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。
調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けて実行します。

使用可能なモード P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ピクセルマッピング］の順に選択し、 を押します。

「メニューの操作方法」(P.34)

- ［スタート］と表示されます。

2 を押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。
- 終了後、 を押すとメニューが終了します。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ず再度このチェックを行ってください。

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。
プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。
DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格で、プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

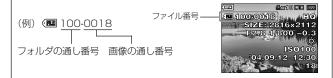
DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、DPOF対応のプリンタを使ってカードから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをより高画質に設定することをおすすめします。☞「画質モード」（P.85）

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと［カード残量がありません］と表示され、予約できない場合があります。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999コマまでです。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示（インデックス表示）しているときは、凸マークが表示され、プリント予約を確認できます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- TIFF で記録された画像は、プリントできない場合があります。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

カードにプリント予約する

1 **静止画を再生します。**

- 🎥 マークのついた画像は、プリント予約できません。

2 **トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択します。**

☞「メニューの操作方法」(P.34)

- すでにプリント予約した画像があるときには、前回設定したプリント予約をすべて解除するかどうか、選択画面が表示されます。［解除する］を選択すると、プリント予約がすべて解除されます。

3 **△▽ を押して［1コマ予約］［全コマ予約］から選択し、OK を押します。**

1コマ予約：選択した画像のみをプリント予約します。プリント枚数の設定や撮影日時入りのプリントの設定をします。手順4へ。

全コマ予約：カード内の全画像をプリント予約します。撮影日時入りのプリントの設定をします。全画像1枚ずつ予約されます。手順5へ。

4 手順3で［1コマ予約］を選択

プリント予約したい画像を、◁▷ を押して選択します。

- すでにプリント予約されているコマには、前に設定されたプリント枚数が表示されます。

を押してプリント枚数を選択します。

- 最高10枚まで予約できます。0枚に設定すると、プリント予約されません。

他のコマをプリント予約するには、 を押します。

枚数の設定が終了したら、 を押します。

- ［日時プリント］画面が表示されます。

5 **を押して［無し］［日付］［時刻］から選択し、 を押します。**

無し：画像のみプリント
日付：画像に撮影年月日を追加してプリント
時刻：画像に撮影時刻を追加してプリント

6 **予約したコマ数、プリント総枚数、日時プリントの有無を確認します。 を押して［予約する］を選択し、 を押します。**

- ［予約しない］を選択すると、すべての予約設定が解除されます。

7 **を押すと、プリント予約を終了します。**

9 ダイレクトプリント（PictBridge）

ダイレクトプリントについて

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。☞「プリント予約とは」（P.131）
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridgeとは…異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定とは…PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P.138～146）で［凸 標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

ヒント

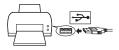
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

注意

- 電源には別売のACアダプタのご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、十分に充電された電池をお使いください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- ムービーはプリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 **プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルのプリンタ接続側のプラグを差し込みます。**

- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 **専用USB ケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。**

- 自動的にカメラの電源が入ります。
- カメラの液晶モニタが点灯し、USBケーブルの接続先の選択画面が表示されます。

3 **△▽を押して［プリント］を選択し、OKを押します。**

- ［しばらくお待ちください］と表示されたあとカメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。プリントの設定はカメラの液晶モニタを見ながら操作します。「プリントする」（☞ P.137）に進みます。

- 手順3で［PC］を選択するとカメラはプリントモード選択画面へ進みません。数分待っても進まないときはUSBケーブルを抜いて、手順1からやりなおしてください。

プリントする

カメラが正しくPictBridge対応プリンタに接続されると、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。この画面でプリントモードを選択して、プリントします。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。

プリント 選択した画像をプリントします。
☞「プリントモード／マルチプリントモード」(P.139)

全コマプリント カードの中の全画像をプリントします。
☞「全コマプリントモード」(P.143)

マルチプリント 1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
☞「プリントモード／マルチプリントモード」(P.139)

全コマインデックス カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
☞「全コマインデックスモード／予約プリントモード」(P.145)

予約プリント プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約（P.131）された画像が無いときは、選択できません。
☞「全コマインデックスモード／予約プリントモード」(P.145)

プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。
詳しくはプリンタの取扱扱説明書をご覧ください。

簡単なプリント方法

一番簡単なプリント方法を使って、1枚プリントをしてみましょう。選択した画像が1枚プリントされます。日付やファイル名はプリントされません。

1 プリントモード選択画面で、△▽ を押して［プリント］を選択し、OK を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 △▽ を押して用紙サイズを選択し、▷ を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチまたは分割数の設定は標準設定になります。→手順4へ進みます。

3 △▽ を押してフチの有無を選択し、OK を押します。→手順5へ進みます。

有り（□）	用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□）	用紙いっぱいにプリントします。

4 ◁▷ を押してプリントする画像を選択し、OK を押します。

- プリント画面が表示されます。

5 ⊂⊃⊂⊃ を押して［プリント］を選択し、㊎ を押します。

- プリントが開始されます。
- ［中止］を選択して㊎ を押すとプリントモード選択画面に戻ります。
- プリントが終了すると手順4に戻ります。手順4、5を繰り返して、プリントを続けることができます。

プリントモード／マルチプリントモード

1 プリントモード選択画面で、⊂⊃⊂⊃ を押して［プリント］、または［マルチプリント］を選択し、㊎ を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 ⊂⊃⊂⊃ を押して用紙サイズを選択し、▷ を押します。

プリントモードの場合

→手順3へ進みます。

マルチプリントモードの場合

→手順4へ進みます。

- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチまたは分割数の設定は標準設定になります。→手順5へ進みます。

3 **を押してフチの有無を選択し、を押します。→手順5へ進みます。**

有り（□）	用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□）	用紙いっぱいにプリントします。

4 **を押して分割数を選択し、を押します。**

- 設定可能な分割数は、手順2で選択した用紙サイズやプリンタの種類によって異なります。

5 **を押してプリントする画像を選択します。**

- ズームレバーをW側にたおすと、インデックス表示されます。インデックスから画像を選択することもできます。

6 **予約方法を選択します。**

1枚予約	選択している画像を標準設定で予約します。プリント枚数は1枚です。
詳細予約	選択している画像のプリント枚数を設定してプリント予約します。日付やファイル名の付加などの設定もできます。

●1枚予約する

⊜ を押します。

- 凸 が表示されている画像のときに⊜ を押すと、予約が解除されます。

予約マークが表示されます。

●詳細予約する

① **⊜ を押します。**

- プリント情報設定画面が表示されます。

② **⊜⊜ を押して設定したい項目を選択し、▷を押します。**

- ⊜⊜ を押して設定を変更し、OK を押します。

プリント枚数	プリント枚数を設定します。枚数は10枚まで設定できます。
日付（⊕）	［有り］を選択すると、画像に日付が付加されてプリントされます。
ファイル名（FILE）	［有り］を選択すると、画像にファイル名が付加されてプリントされます。

- マルチプリントモードでは、［日付］［ファイル名］の設定はできません。

③ **詳細予約の設定が終了したら、㊙ を押します。**
- 手順5の画面に戻ります。

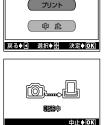
- 複数の画像をまとめてプリントまたはマルチプリントするときは、手順5と手順6の「1枚予約」と「詳細予約」を繰り返して、プリントする画像をすべて選択します。
- マルチプリントモードでは、▦ が表示されます。

設定状態が表示されます。

7 ㊙ を押します。
- プリント画面が表示されます。

8 プリントします。
- ⊜⊜ を押して［プリント］［中止］から選択し、㊙ を押します。

プリント プリントを開始します。
中止 設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」(P.147)

データ転送中の画面

●プリントを途中で中止する

プリンタへデータを転送中に ㊙ を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、⊜⊜ を押して［中止］を選択し、㊙ を押します。

全コマプリントモード

1 プリントモード選択画面で、 ⊿▽ を押して[全コマプリント］を選択し、 ㊙ を押します。

● プリント用紙設定画面が表示されます。

2 ⊿▽ を押して用紙サイズを選択し、 ▷ を押します。

● プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定になります。→手順4に進みます。

3 ⊿▽ を押してフチの有無を選択し、 ㊙ を押します。

有り（▢） 用紙の周辺に余白を付けてプリントします。

無し（▢） 用紙いっぱいにプリントします。

● プリント情報設定画面が表示されます。

4 **を押して設定したい項目を選択し、を押します。**

- を押して設定を変更し、を押します。
- プリント情報設定ができないプリンタの場合は、手順6に進みます。
- プリント枚数は各1枚です。

日付（）	［有り］を選択すると、画像に日付が付加されてプリントされます。
ファイル名（）	［有り］を選択すると、画像にファイル名が付加されてプリントされます。

5 **を押します。**

- プリント画面が表示されます。

6 **プリントします。**

- を押して［プリント］［中止］から選択し、を押します。

プリント	プリントを開始します。
中止	設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.147）

データ転送中の画面

●プリントを途中で中止する

プリンタへデータの転送中に ㊋ を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、△▽ を押して［中止］を選択し、㊋ を押します。

全コマインデックスモード／予約プリントモード

1 プリントモード選択画面で、△▽ を押して［全コマインデックス］、または［予約プリント］を選択し、㊋ を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 △▽ を押して用紙サイズを選択し、▷ を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定（プリンタ初期設定）になります。→手順4に進みます。

3 ⊂△⊃⊂▽⊃ を押してフチの有無を選択し、㊙ を押します。

有り（□） 用紙の周辺に余白を付けてプリントします。
無し（□） 用紙いっぱいにプリントします。
- プリント画面が表示されます。
- 全コマインデックスモードでは、フチの選択はありません。㊙ を押して手順4に進みます。

4 プリントします。

- ⊂△⊃⊂▽⊃ を押して［プリント］［中止］から選択し、㊙ を押します。

プリント プリントを開始します。
中止 設定した内容が取り消され、プリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.147）

データ転送中の画面

●プリントを途中で中止する

プリンタへデータの転送中に ㊙ を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、⊂△⊃⊂▽⊃ を押して［中止］を選択し、㊙ を押します。

ダイレクトプリントを終了する

プリントが終了したら、カメラをプリンタから取り外します。

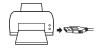
1 **プリントモード選択画面で、◁を押します。**

● メッセージが表示されます。

2 **カメラからUSBケーブルを抜きます。**

● カメラの電源が切れます。

3 **プリンタからUSBケーブルを抜きます。**

9
ダイレクトプリント (PictBridge)

エラーコードが表示されたときは

ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続しなおしてください。接続されていません
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。

ヒント

• その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード表示」（☞ P.149）をご確認ください。

エラーコード表示

表示	原因	こうしましょう
カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。または、カードを正しく入れなおしてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
このカードは使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約やリサイズなど新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消去してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録されていません	カードに記録画像がないため、画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。

表示	原因	こうしましょう
[!] この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
カードカバーが開いています	電池／カードカバーが開いています。	電池／カードカバーを閉めてください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。フォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されます。
日時を設定してください	はじめてカメラを使用するときや長期間電池を抜いていたときは、日時が初期設定に戻っています。	日時を設定してください。

故障かな？と思ったら

●準備操作

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない／ボタンを押しても動作しない		
電源が切れている	レンズバリアを開いて、電源を入れてください。	P.27
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	P.22
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	―
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.28
パソコンに接続している	パソコンやプリンタと接続中、カメラは動作しません。	―

●撮影

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
レンズバリアが閉じている	レンズバリアを開いてください。	P.27
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	P.22
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.62
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.107
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（液晶モニタが消灯した。）	電池を充電してください。カードアクセスランプが点滅中は、消灯するまでお待ちください。	P.22
液晶モニタのメモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.19
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.149

原因	こうしましょう	参照ページ
ファインダが見にくい		
ファインダが結露*している	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	—
液晶モニタが見にくい		
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調整してください。	P.123
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—
撮影時に液晶モニタの画面に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体にカメラを向けると、画面に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	—
画像ファイルに記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.30
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.30
設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
［設定保持］の機能が［しない］に設定されている	モードメニューの［設定保持］を［する］にしてください。	P.109

* 結露 ： 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。
　　　　カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

原因	こうしましょう	参照ページ
ピントが合わない		
被写体との距離が近すぎる	被写体との距離は20cm以上はなして撮影してください。20cmよりも近づいて撮影するときは、スーパーマクロモードに設定してください。	P.69、70
AFが苦手な被写体である	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.52
レンズの表面が結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	ー
液晶モニタが消灯した		
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.28
液晶モニタを消灯して電源を切った	モードメニューの［設定保持］が［する］に設定されていると、電源を切る前の状態が記憶されています。 液晶モニタを点灯させてから電源を切ってください。	P.47、109
フラッシュが発光しない		
フラッシュが 発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を［ 発光禁止］以外に設定してください。	P.61
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを［強制発光］に設定してください。	P.61
ドライブ（オートブラケット撮影）が設定されている	フラッシュモードが［ 赤目軽減］および［赤目・スローシンクロ］に設定されていると、ドライブではフラッシュが発光しません。 オートブラケット撮影をやめてください。	P.74

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光しない		
🎥（ムービー）モードに設定されている	🎥モードではフラッシュはご使用になれません。🎥以外の撮影モードにしてください。	P.41
スーパーマクロモード撮影をしている	スーパーマクロモードではフラッシュはご使用になれません。スーパーマクロを［オフ］に設定してください。	P.70
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。パノラマ撮影を解除してください。	P.77
電池の消耗が早い		
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	ー
電池残量が正しく表示されていない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。電池を充電してください。	P.19、22
ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している		
電池の残量がない	電池を充電してください。	P.22

●画像の仕上がりがよくない

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像のピントが合っていない		
AFが苦手な被写体を撮影した	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.52
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。	P.45

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像のピントが合っていない		
フラッシュが必要な暗い状況で 発光禁止に設定していた	フラッシュを［ 発光禁止］以外に設定してください。シャッター速度が遅くなると手ぶれが起きやすくなります。三脚をご使用になるか、フラッシュをオートにして撮影してください。	P.61
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	P.167
セルフタイマー撮影でカメラの前に立ってシャッターボタンを押した	カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.71
撮影した画像が明るすぎる		
フラッシュの設定が 強制発光になっていた	［ 強制発光］以外のフラッシュモードに設定してください。	P.61
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると周辺部が明るく写ります。露出補正をアンダー（−）側に設定してください。	P.90
ISOが高感度設定になっている	ISO感度を［オート］または［64］などの低感度に設定してください。	P.89
A（**M**）モードで小さい絞り値になっている	絞り込んで（絞り値を大きくして）ください。または、**P**モードに設定してください。	P.64
S（**M**）モードで遅いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を速くしてください。または、**P**モードに設定してください。	P.65

10

その他

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が暗い		
フラッシュを指で覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.45
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.61
フラッシュが ⊛ 発光禁止になっていた	フラッシュを［⊛ 発光禁止］以外に設定してください。	P.61
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを［⚡強制発光］に設定するか、測光を［⊡ スポット測光］に設定して撮影してください。	P.61、68
連写モードで撮影した	連写モードはシャッター速度の最長時間が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写るおそれがあります。モードメニューの［ドライブ］を［単写］にしてください。	P.74
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると全体が暗く写ります。露出補正をオーバー（＋）側に設定してください。	P.90
A（**M**）モードで大きい絞り値になっている	絞りを開いて（絞り値を小さくして）ください。または、**P**モードに設定してください。	P.64
S（**M**）モードで速いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を遅くしてください。または、**P**モードに設定してください。	P.65

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像の色がおかしい		
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.91
撮影する構図の中に白の基準になるものがなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを［ ϟ 強制発光］に設定して撮影してください。	P.61
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.91
画像の一部が暗い		
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.45
画像のハレーション部に不自然な色がつく		
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、PaintShop Proなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	ー

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタ上で再生できない		
電源が入っていない	▶（再生）ボタンを押してください。	P.28、95
撮影モードになっている	▶（再生）ボタンを押してください。	P.95
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに［画像が記録されていません］と表示されます。撮影してから再生してください。	ー
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.149
テレビに接続している	AVケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.103
1 コマ消去・全コマ消去ができない		
画像がプロテクトされている	On マークの付いた画像を表示して、On（プロテクト）ボタンを押してプロテクトを解除してください。	P.106
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域の映像信号にビデオ出力の設定を合わせてください。	P.128
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビをビデオ（映像）入力モードにしてください。	P.103
液晶モニタが見にくい		
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	メニューの［モニタ調整］で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.123
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	ー

●パソコンやプリンタとの接続

原因	こうしましょう	参照ページ
パソコンでカメラが認識されない		
USB ドライバがインストールできていない	Windows 98/98SEではUSBドライバのインストールが必要です。別冊の「デジタルカメラ／パソコン接続操作説明書」にしたがってドライバをインストールしてください。	―
プリンタと接続できない		
USBケーブルでプリンタと接続したあと液晶モニタで［PC］を選択した	カメラからUSBケーブルを抜いて、最初の手順からやり直してください。	P.136
プリンタがPictBridgeに対応していない	ご使用のプリンタの取扱説明書をご確認ください。または、プリンタメーカーにお尋ねください。	―

メニューディレクトリ

●P/A/S/M/ / / / / / / モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	SCENE*1	風景	P.42
			記念写真	
			セルフポートレート	
			スポーツ	
		セルフタイマー/リモコン	オフ	P.71,72
			セルフタイマー	
			リモコン	
		ドライブ*2	単写	P.74
			連写	
			AF連写	
			BKT ― ±0.3 / ±0.7 / ±1.0 ― x3 / x5	
		ISO感度	オート *3	P.89
			64 *4	
			100	
			200	
			400	
		フラッシュ補正	－2～ 0.0 ～+2	P.63
		ノイズリダクション*5	オフ	P.94
			オン	
		デジタルズーム*6	オフ	P.58
			オン	
		フルタイムAF	オフ	P.67
			オン	
		アクセサリ	オフ	P.84
		スチル録音	オフ	P.81
			オン	
		スーパーマクロ*6	オフ	P.70
			オン	
		パノラマ*7		P.77
		合成ツーショット		P.79
		ファンクション撮影	オフ	P.80
			モノクロ	
			セピア	
		撮影情報表示	オフ	P.117
			オン	

次ページへつづく

：初期設定

次ページへつづく

：初期設定

10

その他

トップメニュー	タブ	項目	選択肢		参照頁
モードメニュー	設定	レックビュー	オフ		P.127
			オン		
		ビープ音	オフ		P.123
			小		
			大		
		シャッタ音	オフ		P.124
			1	小	
			2	大	
		スリープ時間	30秒		P.128
			1分		
			3分		
			5分		
			10分		
		マイモード設定	現設定*5	登録	P.114
				中止	
			クリア	クリア	
				中止	
			カスタム – [カスタム設定] 画面へ		P.116
		ファイル名メモリー	リセット		P.129
			オート		
		ピクセルマッピング			P.130
		モニタ調整			P.123
		日時設定			P.30
		ビデオ出力	NTSC		P.128
			PAL		
		ショートカット設定	A		P.111
			B		
セルフタイマー／リモコン	ショートカット設定で変更可。				P.71、72
画質モード	ショートカット設定で変更可。				P.85
モニタオフ（モニタオン）					P.51

*1 / / / モード以外では選択できません。

*2 モードでは選択できません。

*3 P/ / / / / / モードの初期設定。

*4 A/S/Mモードの初期設定。

*5 P/A/S/Mモード以外では選択できません。 モードでは、設定している撮影モードによっては選択できません。

*6 モードでは選択できません。 モードでは、設定している撮影モードによっては選択できません。

*7 A/S/M/ モードでは選択できません。 モードでは、設定している撮影モードによっては選択できません。

（網掛け）：初期設定

● AUTO モード

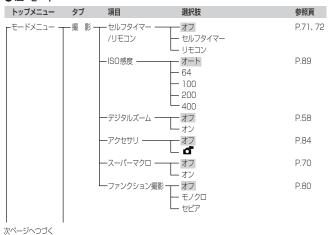
トップメニュー	選択肢	参照頁
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.71、72
	セルフタイマー	
	リモコン	
画質モード	SHQ	P.85
	HQ	
	SQ1	
	SQ2	
日時設定		P.30
カードセットアップ	フォーマット	P.121
	中止	

● モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	セルフタイマー/リモコン	オフ	P.71、72
			セルフタイマー	
			リモコン	
		ISO感度	オート	P.89
			64	
			100	
			200	
			400	
		デジタルズーム	オフ	P.58
			オン	
		アクセサリ	オフ	P.84
		スーパーマクロ	オフ	P.70
			オン	
		ファンクション撮影	オフ	P.80
			モノクロ	
			セピア	

次ページへつづく

：初期設定

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	画　像	画質モード	HQ	P.85
			SQ	
		シャープネス	−2～ ±0 ～+2	P.92
		コントラスト	−2～ ±0 ～+2	P.93
	カード	カードセットアップ	フォーマット	P.121
			中止	
	設　定	設定保持	しない	P.109
			する	
			日本語	P.32
			ENGLISH	
			FRANCAIS	
			DEUTSCH	
			ESPAÑOL	
			ITALIANO	
			РУССКИЙ	
			PORTUGUES	
		PW ON/OFF設定	画面 ― オフ	P.126
			画面 ― オン	
			音量 ― オフ	
			音量 ― 小	
			音量 ― 大	
		ビープ音	オフ	P.123
			小	
			大	
		ファイル名メモリー	リセット	P.129
			オート	
		ピクセルマッピング		P.130
		モニタ調整		P.123
		日時設定		P.30
		ビデオ出力	NTSC	P.128
			PAL	
ムービー録音			オフ	P.83
			オン	
ホワイトバランス			オート	P.91
			晴天	
			曇天	
			電球	
			蛍光灯	
モニタオフ（モニタオン）				P.51

：初期設定

● ▶ モード（静止画）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	回転表示	＋90°	P.99
			0°	
			−90°	
		プリント予約		P.131
		録音		P.104
	編　集	リサイズ	640x480	P.105
			320x240	
			中止	
	カード	カードセットアップ	全コマ消去	P.108
			フォーマット	P.121
	設定	設定保持	しない	P.109
			する	
		(言語アイコン)	日本語	P.32
			ENGLISH	
			FRANCAIS	
			DEUTSCH	
			ESPAÑOL	
			ITALIANO	
			РУССКИЙ	
			PORTUGUES	
		PW ON/OFF設定	画面 ― オフ	P.126
			画面 ― オン	
			音量 ― オフ	
			音量 ― 小	
			音量 ― 大	
		ビープ音	オフ	P.123
			小	
			大	
		再生音量	オフ	P.125
			小	
			大	
		モニタ調整		P.123
		日時設定		P.30
		ビデオ出力	NTSC	P.128
			PAL	
		インデックス表示	4	P.97
			9	
			16	
自動再生				P.98
情報表示				P.118
ヒストグラム表示				P.119

■：初期設定（初期設定の選択肢：0°、640x480、全コマ消去、しない、日本語、オン、小、小、小、NTSC、9 — 網掛け表示）

● ▶ モード（ムービー）

：初期設定

カメラのお手入れと保管

●カメラのお手入れ

1 **レンズバリアを閉じて、カメラの電源を切ります。**

2 **電池を取り出します。** ☞ P.24

● ACアダプタを使用しているときは、ACアダプタの接続コードプラグをカメラから抜き、電源プラグをコンセントから抜きます。

3 **カメラの外側**

→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

→ レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭きます。

カード

→ 乾いた柔らかい布で拭きます

●カメラの保管

• カメラを長期間使用しないときは、電池とカードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
• 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

注意

• 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
• お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
• レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
• 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書に従ったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、当社修理センター、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のWマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式 静止画 対応規格 静止画音声 ムービー	 デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、TIFF非圧縮 Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching II、PictBridge Waveフォーマット準拠 QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	xDピクチャーカード、16MB～512MB
記録画素数	2816 x 2112ピクセル（TIFF/SHQ/HQ） 2560 x 1920ピクセル（TIFF/SQ1） 2272 x 1704ピクセル（TIFF/SQ1） 2048 x 1536ピクセル（TIFF/SQ1） 1600 x 1200ピクセル（TIFF/SQ1） 1280 x 960ピクセル（TIFF/SQ2） 1024 x 768ピクセル（TIFF/SQ2） 640 x 480ピクセル（TIFF/SQ2）
記録コマ数 （32MBカード使用時、音声なし）	約1枚（TIFF: 2816x2112） 約7枚（SHQ: 2816x2112） 約21枚（HQ: 2816x2112） 約66枚（SQ1: 1600x1200 標準） 約398枚（SQ2: 640x480 標準）
カメラ部有効画素数	607万画素
レンズ	オリンパスレンズ：7.8～23.4mm、F2.8～F4.8、6群7枚（35mmフィルム換算38～114mm相当）
測光方式	撮像素子による中央重点測光およびスポット測光
絞り	W ：F2.8～F8.0 T ：F4.8～F8.0
シャッター 静止画 ムービー	メカニカルシャッター併用 1～1/1000秒（Mモード：8～1/1000秒） （夜景モード／スローシンクロフラッシュ使用時：4～1/1000秒） 1/30 ～ 1/8000秒
撮影範囲	通常：50cm～∞ マクロ撮影：20cm (W) ～50cm スーパーマクロ撮影：4cm (W) ～20cm

ファインダ	光学実像式ファインダ
液晶モニタ	1.8型（インチ）液晶TFTカラー液晶（低温ポリシリコン)、 約134000画素
オートフォーカス	デュアルオートフォーカス（コントラスト検出方式とパッシブ測距方式併用）
コネクタ	DC入力端子・USB端子・A/V出力端子
自動カレンダー機能	2000～2099年の範囲で自動修正
使用環境 温度 湿度	 0～40℃（動作時）/－20～60℃（保存時） 30～90%（動作時）/10～90%（保存時）
電源	当社製リチウムイオン電池LI-10B/12B1個 または専用ACアダプタ（別売）
大きさ	幅99.5mm x 高さ58.5mm x 厚さ41.5mm （突起部除く）
質量	194g（電池／カード別除く）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640x480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640x480のときではモニタ全体に表示されますが、1024x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

コントラスト検出方式
被写体までの距離を測るのに使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

デュアルオートフォーカス
異なるフォーカス検出方式を併用して行うオートフォーカスのこと。このカメラでは、CCDを用いたコントラスト検出方式とパッシブ測距方式とを使用することで互いの短所を補っています。

バックライト
液晶モニタを背面から照らすための光源。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度と絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

Aモード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラが自動的に露出を決める方式。このカメラには、絞りとシャッター速度をカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッター速度をカメラに任せるAモード、シャッター速度を決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッター速度の両方を決める必要があります。

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF （design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQ1／SQ2に設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSC は主に日本、北米、韓国で使用され、PAL は主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

PictBridge
異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度にしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TFT（thin-film transistor）
薄膜で作られたトランジスタを利用したカラー液晶モニタ。

TIFF（tagged image file format）
モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。このカメラでは圧縮しない画像のフォーマットに採用しています。

TTL（through the taking lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

索引

英数／記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1　新宿モノリス

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページで提供しております。

オリンパスホームページ（**http://www.olympus.co.jp/**）から「お客様サポート」→「映像・情報分野」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

●電話等でのご相談窓口

カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHSからは 0426-42-7499

FAX 0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　9:30～21:00
土、日、祝日　10:00～18:00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

●修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL: 0266-26-0330　FAX: 0266-26-2011
〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮　3-15-1　オリンパス岡谷修理センター
営業時間9:00～17:00（土・日曜、祝日および弊社休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

地域	郵便番号	住所	電話
東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)3403
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6995
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

※土・日曜、祝日および夏期休業、年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております

Printed in China　VT715701